

会議録
令和 7 年第 3 回更別村議会定例会
第 1 日 （令和 7 年 9 月 9 日）

◎議事日程（第 1 日）

- 第 1 会議録署名議員指名の件
- 第 2 議会運営委員長報告
- 第 3 会期決定の件
- 第 4 諸般の報告
- 第 5 一般行政報告
- 第 6 教育行政報告
- 第 7 報告第 4 号 令和 6 年度更別村財政の健全化判断比率及び公営企業に係る資金不足比率の報告の件
- 第 8 議案第 6 6 号 更別村教育委員会委員の任命につき同意を求める件
- 第 9 議案第 6 7 号 更別村議会議員及び更別村長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の一部を改正する条例制定の件
- 第 1 0 議案第 6 8 号 更別村職員の勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例制定の件
- 第 1 1 議案第 6 9 号 更別村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例制定の件
- 第 1 2 議案第 7 0 号 北海道町村議会議員公務災害補償等組合理約の変更の件
- 第 1 3 議案第 7 1 号 北海道市町村職員退職手当組合理約の変更の件
- 第 1 4 議案第 7 2 号 北海道市町村総合事務組合理約の変更の件
- 第 1 5 議案第 7 3 号 令和 7 年度更別村一般会計補正予算（第 4 号）の件
- 第 1 6 議案第 7 4 号 令和 7 年度更別村国民健康保険特別会計補正予算（第 2 号）の件
- 第 1 7 議案第 7 5 号 令和 7 年度更別村介護保険事業特別会計補正予算（第 2 号）の件
- 第 1 8 議案第 7 6 号 令和 7 年度更別村簡易水道事業特別会計補正予算（第 2 号）の件
- 第 1 9 議案第 7 7 号 令和 7 年度更別村公共下水道事業特別会計補正予算（第 2 号）の件
- 第 2 0 議案第 7 8 号 動産の買入の件
- 第 2 1 議案第 7 9 号 動産の買入の件
- 第 2 2 認定第 1 号 令和 6 年度更別村一般会計歳入歳出決算認定の件
- 第 2 3 認定第 2 号 令和 6 年度更別村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定の件
- 第 2 4 認定第 3 号 令和 6 年度更別村後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算認定の件
- 第 2 5 認定第 4 号 令和 6 年度更別村介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定の件

- 第26 認定第 5号 令和6年度更別村簡易水道事業特別会計歳入歳出決算認定の件
 第27 認定第 6号 令和6年度更別村公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定の件

◎出席議員（8名）

議長	8番	織田 忠司	副議長	7番	高木 修一
	1番	太田 綱基		2番	安村 敏博
	3番	斎藤 憲		4番	尾立 要子
	5番	小谷 文子		6番	荻原 正

◎欠席議員（0名）

◎地方自治法第121条の規定による説明員

村 長	西山 猛	副 村 長	大野 仁
教 育 長	宝輪 祐子	代表監査委員	笠原 幸宏
総務課長	末田 晃啓	総務課参事	小寺 誠
企画政策課長	本内 秀明	企画政策課参事	今野 雅裕
産業課長	高橋 祐二	住民生活課長 会計管理者	小野寺 達弥
建設水道課長	石川 亮	保健福祉課長	新関 保
子育て応援課長	酒井 智寛	診療所事務長	岡田 昌展
教育委員会 教育次長	伊東 秀行	学校給食 センター所長	小林 浩二
農業委員会 事務局長	川上 祐明		

◎職務のため出席した議会事務局職員

事務局長	佐藤 敬貴	書 記	村田 弘治
書 記	尾花 圭市		

(午前10時02分開会)

◎開会宣告

○議長 ただいまの出席議員は8名であります。

定足数に達しておりますので、これより令和7年第3回更別村議会定例会を開会いたします。

村長より招集の挨拶があります。

西山村長。

○村長 皆さん、おはようございます。若干長くなりますので、大変恐縮ですが、聞いていただけますようによろしくお願いします。

本日ここに令和7年第3回更別村議会定例会の招集をお願い申し上げましたところ、議員各位におかれましては大変ご多忙の中ご出席を賜り、厚く御礼を申し上げます。

去る8月21日、22日、昨年度道内11町村で設立をいたしました「地域の持続的発展を考える自治体連絡会」本年度の初会合が鶴居村を会場に行われました。同席されました自民党過疎対策特別委員会の谷公一委員長をはじめ全国過疎地域連盟の宮原事務局長、総務省の渡辺過疎対策室長に今後の過疎地域の指定継続を要請いたしました。その後北海道総合政策部、津久井地域づくり担当局長、釧路総合振興局、寺田局長、北海道町村会の柴田常務理事を交えての意見交換会を行いました。合わせて47名の皆さんが参加をされました。これまでも過疎地域指定継続の中央要請や、札幌での研修会等を毎年行っておりませんが、今年度は連絡会の会長を務める大石村長の地元である鶴居村での開催となったものであります。その後の意見交換会や視察研修が行われまして、意見交換会ではそれぞれの過疎地域の課題や現状につきまして参加町村長の声にも耳を傾けていただき、大変有意義な機会となりました。また、過疎対策事業債の期限を迎えます令和12年度以降の指定継続に向けても、大きなステップになったのではないかと考えております。本村としても、他町村と連携して過疎地域指定継続に向け全力で取り組む決意であります。今後とも議員、村民の皆さんのご支援、ご理解を重ねてよろしくお願い申し上げます。

さて、現在本村では例年よりかなり早い収穫作業が進められております。この間の厳しい猛暑や干ばつ、時期によっては多量の降水と目まぐるしく入れ替われる激しい気候変動による一部作物への悪影響が生じており、他の作物への波及が懸念されるところであります。収穫作業が進む中で、この災害級の異常気象による影響で畑作農家の皆さん、酪農、畜産をはじめとした農家の皆さんを取り巻く現状はこれまでになく大変に厳しいものとなっております。収穫量の減少のみならず、来年度以降の種芋の確保、牧草を含む粗飼料の確保等、この影響は数年にわたって続くのではないかと生産者やJAを含む関係者の皆さんが大変な危機感を持っておられます。いまだに農業資材や肥料、飼料、燃油の高騰が続く中、本村としても今後の村の農業経営の安定や農業基盤の維持を大きく揺るがす深刻な事態として重く受け止め、今後JAさらべつや関係機関の皆さんと共に今後の収穫等の状況を見極め、国や道に対して必要な支援の働きかけを行い、村としても対応策の検討を進めてまいりた

いと考えております。

先日村、J Aさらべつ、アグリスマイルとの間でアグリテックに関する連携協定を締結したところであります。高温や乾燥などの作物のストレスや栄養吸収、成長の促進に効果のある農業資材、バイオスティミュラントの共同開発にも連携して取り組んでまいるところであります。また、先週本件に関してはベトナムから企業視察団の来村がありました。喫緊の課題ともなっている高温、干ばつに対応する農業資材の開発に、これは積極的に真剣に取り組んでまいらなければいけないと思っています。今後の収穫作業が天候にも恵まれ、安全に推移し、生産者の皆さんのこれまでのご努力とご苦勞が報われ、本年も実り豊かな豊穡の秋となることを切に切に願っております。

7月の十勝圏活性化推進期成会夏季要望活動、地元要請、その後の札幌要請に引き続き、7月24日には中央要請、東京に参加してまいりました。私は、4班の班長として黒川大樹町長、本田陸別町長、横山帯広市議会議長と共に文科省、内閣府、J A X Aを回りました。文科省では金城泰邦大臣政務官と面談をしております。特に本年度北海道全体の70%近くが不採択であった学校施設環境改善交付金の全申請の4月に遡っての採択を強く要望してまいりました。この間市町村での学校等の施設の改修、新築を断念したり、翌年以降に繰り越した自治体も多数に上りました。ぜひ秋、冬の臨時国会での補正予算再提案をお願いするものです。続いて、内閣府を訪れ、坂井学特命担当大臣と面談し、千島海溝地震発生を想定したハード、ソフト両面での大規模災害対策の実施を要望しました。J A X Aに赴いて大樹町のスペースポートの建設への継続支援を要請してまいりました。

さて、先月総務省が正式発表した本村の昨年度のふるさと納税であります。寄附金が約5億5,000万円となり、前年対比約30%の増となりました。昨年に引き続き過去最高寄附額となっております。貴重な自主財源の確保として、それらに基づく本村の施策の実現や課題解決に向けてしっかりと地道に今後とも取り組んでまいりたいと考えております。現在給食センター、福祉ホーム、花園プラムタウンの造成工事、建設工事が着々と進んでおります。12年の工期を要する国営かん排事業、新更別地区もいよいよ本格的な大型工事が開始をされました。

国道橋の架け替え工事が進捗する中、7月に発生したサラベツ川の水質汚染につきましては、汚染源の調査も行われ、中札内村管轄のペペギリ川の床ざらいが完了、引き続き行われたサラベツ川を管轄する北海道による同作業も完了し、今後の対策も関係機関が連携して取り組むことを確認しております。今後は計画どおり橋の架け替え工事、続いて行われる高規格道路から国道までのサラベツ川の河川改修作業が順調に推移することを願っております。

村が掲げる更別スーパービレッジ構想に基づく住民サービスの充実や、待ったなしのデジタル化につきましても、どんぐりスタンプのデジタル化に向け10月1日からはポイント付与が開始をされます。既に春に開始をされた緊急搬送時のマイナンバーカードのデータ活用にも引き続き、診療所の予防接種の予約等がデジタル化され、スマホで予約が可能となり

ます。現在のマイナンバーカードの保有率は87.1%と道内、全国でも高水準を維持しております。また、災害に備え整備をしております、いつでもどこでも高速通信網が使用可能となるスターリンク衛星の基地局も、上更別市街地や福祉館を含む村内で新たに10か所の基地局を設置する予定であります。

7月31日には、明るい話題として大阪の万博会場、シャインハットで更別農業高校が地域課題解決に向けた規格外野菜の加工品開発について発表を行いました。限りある資源を有効に活用する取組をこれからも更別村から世界へと発信していきますと力強いアピールに強く感激しております。まさに更別農業高校生は村の誇りであり、宝であります。この高校生たちを見習い、決して我々も歩みを緩めることなく、不退転の決意で私もリーダーシップを発揮しながら職員と共に汗を流し、山積する諸課題に果敢に挑戦してまいる決意であります。議員の皆様のご引き続きご理解とご協力を重ねてよろしくお願い申し上げます。

本定例会におきましては、報告案件1件、令和6年度各会計決算認定の件、人事案件1件、条例改正3件、動産買入れの件2件、令和7年度一般会計ほか各会計補正予算など、合わせて21件につきまして審議をお願いするものであります。

どうかよろしくお願い申し上げ、開会に当たりましてのご挨拶といたします。よろしくお願いいたします。

○議 長 村長の挨拶が終わりました。

◎開議宣告

○議 長 直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、あらかじめお手元に配布したとおりであります。

◎日程第1 会議録署名議員指名の件

○議 長 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第125条の規定により、議長において1番、太田さん、2番、安村さんを指名いたします。

◎日程第2 議会運営委員長報告

○議 長 日程第2、議会運営委員長報告を行います。

議会運営委員会に諮問いたしました本定例会の議事運営等に関し、協議決定した内容についての報告を求めます。

太田議会運営委員長。

○太田議会運営委員長 議会運営委員会において協議決定した内容をご報告いたします。

さきに第3回村議会定例会の議事運営等に関して議長から諮問がありましたので、これに応じ9月2日及び9月9日午前9時より議会運営委員会を開き、付議事件及び議事日程並びに会期等について慎重に協議をいたしました。

その結果、会期については、提出案件の状況などを考慮し、検討した結果、本日から9月18日までの10日間と認められました。

以上、委員会での結果をご報告申し上げましたが、本定例会の議事運営が円滑に行われますようよろしくお願い申し上げます。

○議 長 委員長の報告が終わりました。

なお、ただいまの委員長報告に対する質疑は省略いたします。

◎日程第3 会期決定の件

○議 長 日程第3、会期決定の件を議題といたします。

お諮りいたします。本定例会の会期は、本日より18日までの10日間といたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、会期は10日間と決定しました。

◎日程第4 諸般の報告

○議 長 日程第4、諸般の報告をいたします。

諸般の報告は、印刷してお手元に配布しておきましたので、ご了承願います。

次に、産業文教常任委員会の閉会中における所管事務調査の報告を求めます。

斎藤産業文教常任委員長。

○斎藤産業文教常任委員長 本委員会は、所管事項について下記により調査をしたので、会議規則第77条の規定により、調査の概要を報告いたします。

調査日時、令和7年8月28日木曜日午前9時。

調査場所、更別村一円。

調査事項、農作物の作況について。

経過、委員長を含む委員5名により、調査事項について所管課長の出席を求め、農業改良普及センターの職員3名の協力を得て8月15日現在の調査結果の説明を受け、その後村内の圃場の現地調査を行った。

調査の結果、今年の融雪は平年並みで、気温は総じて高めに推移したが、5月下旬から6月初めに気温が低い時期があった。降水量は4月に多かったが、6月は極端に少なく、7月中旬のまとまった降雨までかんがい心配される状況があった。したがって、調査時点までの今年の気候の特徴は、総じて高温、ただし5月末に低温、4月の多雨、6月の少雨、7月半ばの降雨とまとめられる。なお、6月の少雨の影響が大きかったのは本村と中札内村で、十勝全体ではそれほどでなかったとのことである。

個別の作物について報告する。なお、金時、手亡、バレイショ、小豆、大豆、てん菜の6作物について現地調査で確認した。

秋まき小麦は、6月の少雨のため仕上がりが早く、平年より10日早い7月21日に収穫作業が終了した。収量及び品質については懸念なしとしないが、調査時点では資料が得られていない。

バレイショ（メークイン）は、4月の降雨のために植付けが1週間ほど遅れた。その後の高温と少雨のため生育期間が短縮されたが、7月中旬の降雨で再び成長期間が延びて茎葉黄変期は平年より3日早い8月5日となった。茎長は平年より短く、茎数はやや多い。なお、7月の降雨は成長期間を延ばした一方で2次成長を引き起こしたことが懸念されている。現地調査でもそのような芋が散見された。バレイショの作況は翌年以降の種芋の供給にも影響するので、今後の推移を注視したい。

豆類は、播種が順調であったこともあり、総じて平年より早い生育が見られた。開花期は大豆、小豆、金時、手亡のいずれも平年より6日から9日早く、7月半ばまでに開花期を迎えた。懸念材料としては金時及び手亡の着莢数が少ないことがある。これには開花期の高温が影響した可能性がある。現地調査でも株によってさやつきにむらがあるものが散見された。なお、金時は雨による色流れの少ない新品種の秋晴れにほぼ交代している。加工業者等に受け入れられることを期待したい。

てん菜は、今年から直播のみの調査となっている。出芽期は平年から3日遅れの5月11日、その後も6月の少雨で肥大が遅れ、平年より3日遅れの生育状況が続いている。一昨年に被害をもたらした褐斑病は、周到な防除によって抑えられている。品種については、新品種の8K879系が従来の2K314と混播の形で栽培されている。この2品種は日本甜菜製糖が開発した品種であるが、近年は製糖会社の垣根を越えて北海道製糖の品種であるライエンとの混播もあるとのことであった。

牧草（チモシー）は、1番草の出穂期は平年並みの6月12日（1日遅れ）であったが、6月の少雨の影響で夏枯れを起こし、2番草の生育は12日遅れとなっている。2番草収穫後の追播が望まれるが、収穫遅れのために追播可能な時期を逃す可能性もある。冬の気候にもよるが、来年の1番草の収量が懸念される。

サイレージ用トウモロコシは、高温のため生育が進み、平年より10日早い8月12日に乳熟期となった。

近年の気候変動が多くの作物に影響をもたらしつつあること、そして農業者がこれまで以上の努力を傾けていることを実感した。

以上、報告といたします。

○議 長 これで常任委員会の報告を終わります。

◎日程第5 一般行政報告

○議 長 日程第5、一般行政報告を行います。

一般行政報告は、文書で配布されたとおりであります。

これで村長からの一般行政報告を終わります。

これから一般行政報告に対する質疑を行います。
質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終わります。

◎日程第6 教育行政報告

○議 長 日程第6、教育行政報告を行います。
教育行政報告は、文書で配布されたとおりです。
これで教育長からの教育行政報告を終わります。
これから教育行政報告に対する質疑を行います。
質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終わります。

◎日程第7 報告第4号

○議 長 日程第7、報告第4号 令和6年度更別村財政の健全化判断比率及び公営企業に係る資金不足比率の報告の件を議題といたします。

報告の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 報告第4号 令和6年度更別村財政の健全化判断比率及び公営企業に係る資金不足比率の報告の件であります。

令和6年度更別村財政の健全化判断比率及び公営企業に係る資金不足比率を地方公共団体の財政の健全化に関する法律(平成19年法律第94号)第3条第1項及び第22条第1項の規定により、監査委員の審査意見をつけて別紙のとおり報告するものであります。

なお、末田総務課長に補足説明をいたさせます。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議 長 末田総務課長。

○総務課長 それでは、補足説明を申し上げます。

1ページおめくりいただきまして、令和6年度更別村財政の健全化判断比率及び公営企業に係る資金不足比率報告書でございます。1、健全化判断比率は、備考に記載してありますとおり、各比率とも負数で算出された場合は棒線を表示をしております。また、括弧内の数値は総務省が定める早期健全化基準で、各比率が基準以上である場合は財政健全化計画を策定しなければなりません。実質赤字比率は、本村の最も主要な会計である一般会計に生じている赤字を財政規模に対する割合で表したものでございます。一般会計の実質収支額が赤字になると比率は正数として算出されます。本村の実質収支額は2億1,400万3,050円で黒字であることから、実質赤字比率はマイナス6.70%となり、棒線を表示をしております。

連結実質赤字比率は、一般会計に特別会計に生じている赤字を加え、財政規模に対する割合で表したものでございます。一般会計同様本村の特別会計の実質収支額、資金不足、剰余額はいずれも黒字であることから、連結実質赤字比率はマイナス11.52%となり、棒線を表示しております。実質公債費比率は、本村の借入金である村債の返済額、公債費の大きさを財政規模に対する割合で表したものでございます。本村の実質公債費比率は5.2%で、前年度と比較して1.2ポイント低下をしております。将来負担比率は、村債の返済額など村が現在抱えている負債の大きさを表す将来負担額から基金や交付税の歳入見込みなどの充当可能財源額を減じた額を財政規模に対する割合で表したものでございます。本村の将来負担比率は、充当可能財源額が将来負担額を上回ることからマイナス174.8%となり、棒線を表示しております。

次に、2、資金不足比率でございます。資金不足比率は、公営企業会計の資金不足を公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較し、経営状態の悪化の度合いを示すものでございます。簡易水道事業特別会計、公共下水道事業特別会計ともに資金不足が生じておりませんので、資金不足比率は算出されておられません。

1 ページおめくりいただきまして、8月28日付で監査委員から提出されました令和6年度更別村財政の健全化判断比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類の審査意見書の写し、7月2日付で監査委員から提出されました令和6年度更別村公営企業の資金不足比率及びその算定の基礎となる事項を記載した書類の審査意見書の写しを添付しておりますので、ご参照ください。

以上でございます。

○議 長 説明が終わりましたので、これからこの報告に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終了し、報告済みといたします。

◎日程第8 議案第66号

○議 長 日程第8、議案第66号 更別村教育委員会委員の任命につき同意を求める件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 議案第66号 更別村教育委員会委員の任命につき同意を求める件であります。

更別村教育委員会委員に次の方を任命いたしたいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第4条第2項の規定により、議会の同意を求めるものであります。

同意を得ようとする方は、更別村字 にお住まいの佐藤正範様、
であります。

このたび平成21年10月1日から4期16年、本村の教育委員を歴任され、今年9月30日をもって任期満了となるものです。

佐藤様は、平成29年10月1日より教育長職務代理者に就任し、現在まで8年間継続されており、また十勝管内教育委員会連絡協議会理事、北海道町村教育委員会連合会評議員を歴任されておられます。本村の教育振興に熱意を持ち、教育行政全般に係るご提言やご助言を数多くいただいております。さらに、十勝、北海道の教育行政推進にご尽力をいただいている実績は確かなものであります。このたび教育委員の再任をお願いいたしたく議会提案をさせていただきます。

なお、任期は令和7年10月1日から令和11年9月30日までであります。

以上、何とぞご同意を賜りますようよろしくお願い申し上げます、提案説明といたします。

○議 長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終わります。

本案は人事案件でありますので、討論を省略いたします。

お諮りいたします。議案第66号 更別村教育委員会委員の任命につき同意を求める件は、これに同意することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、議案第66号 更別村教育委員会委員の任命につき同意を求める件はこれに同意することに決定しました。

◎日程第9 議案第67号

○議 長 日程第9、議案第67号 更別村議会議員及び更別村長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の一部を改正する条例制定の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 議案第67号 更別村議会議員及び更別村長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の一部を改正する条例制定の件であります。

更別村議会議員及び更別村長の選挙における選挙運動の公営に関する条例（令和2年更別村条例第22号）の一部を改正する条例を別紙のとおり制定するものであります。

1の理由といたしまして、公職選挙法施行令の一部を改正する政令（令和7年政令第200号）の施行に伴い、関連する条文を改めるため、この条例を制定しようとするものであります。

2の要旨といたしまして、選挙運動用ビラ及び選挙運動用ポスターの作成の公営に要す

る経費に係る限度額を改めるものであります。

公職選挙法施行令に規定する公営単価につきましては、国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律と人件費、物価の変動等を考慮する共通の考え方によりまして、3年に1度の参議院議員通常選挙の年にその基準額の見直しを行うことを例としております。本条例では選挙運動用ビラの作成の公費負担額に係る限度額を公職選挙法施行令で定める額と同じ額と規定をしており、公職選挙法施行令と同様に改めるものであります。

また、選挙運動用ポスターの作成の公費負担額に係る限度額を物価の変動等を考慮し、実売価格を調査して決めるものであります。

続きまして、1ページをめくっていただきます。条例本文であります。新旧対照表によって説明をさせていただきます。現行の見出し、(選挙運動用ビラの作成の公費負担額及び支払手続)を規定する第8条の下線部、「7円73銭」とあるのを改正後は「8円38銭」にそれぞれ改めるものであります。

続きまして、見出し、(選挙運動用ポスターの作成の公費負担額及び支払手続)を規定する第11条の下線部、現行「3,000円」とあるのを改正後は「3,600円」に改めるものであります。

次のページをおめくりください。なお、附則といたしまして、施行期日、第1項、この条例は、公布の日から施行するものであります。

適用区分として第2項、改正後の第8条及び第11条の規定は、この条例の施行の日以後その期日を告示される選挙について適用し、この条例の施行の日の前日までにその期日を告示された選挙につきましては、なお従前の例によるものとするものであります。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議長 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議長 長 これで討論を終わります。

これから議案第67号 更別村議会議員及び更別村長の選挙における選挙運動の公営に関する条例の一部を改正する条例制定の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第10 議案第68号

○議長 日程第10、議案第68号 更別村職員の勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例制定の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村長 議案第68号 更別村職員の勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例制定の件であります。

更別村職員の勤務時間その他の勤務条件に関する条例（平成7年更別村条例第1号）の一部を改正する条例を別紙のとおり制定するものであります。

1の理由といたしまして、仕事と生活の両立支援の拡充に関する人事院規則が改正されたことに伴い、国家公務員に準じて関連する条文を改めるため、この条例を制定しようとするものであります。

2の要旨といたしまして、（1）、仕事と生活の両立支援制度を利用しやすい勤務環境の整備に伴い、所要の規定を追加するものであります。

（2）、その他所要の改正を行うものであります。

令和6年の8月8日に人事院が行った公務員人事管理に関する報告におきまして仕事と生活の両立支援の拡充に係る項目が明らかにされ、そのうち仕事と育児の両立支援制度の利用に関する職員の意向確認等につきましては、対応する民間労働法制の施行日である令和7年10月1日から遅れることなく実施することとされていることから、国家公務員に準じて所要の改正を行うものであります。

1ページをおめくりいただきたいというふうに思います。条例本文であります。新旧対照表によって説明をさせていただきます。現行の見出し、（介護休暇）について規定する第19条、下線部であります、「（第19条の3第1項において「配偶者等」という。）」とありますが、「第19条の3」を改正後は「第19条の4」に改めるものであります。

続きまして、改正後に新たに第3項として、19条の3です、「（妊娠、出産等についての申出をした職員等に対する意向確認等）」の見出しの部分の規定を新たに付け加え、第19条の3項として「任命権者は、更別村職員の育児休業等に関する条例（平成4年更別村条例第7号）第21条第1項の措置を講ずるに当たっては、同項の規定による申出をした職員（以下この項において「申出職員」という。）に対して、次に掲げる措置を講じなければならない」という下線部を追加をし、続いて第1号として、同じく下線部、「申出職員の仕事と育児との両立に資する制度又は措置（次号において「出生時両立支援制度等」という。）その他の事項を知らせるための措置」を追加し、第2号として「出生時両立支援制度等の請求、申告又は申出（以下「請求等」という。）に係る申出職員の意向を確認するための措置」を加筆するものであります。続きまして、第3号として「更別村職員の育児休業等に関する条例第21条第1項の規定による申出に係る子の心身の状況又は育児に関する申出職員の家庭の状況に起因して当該子の出生の日以後に発生し、又は発生することが予想される職業生活と

家庭生活との両立の支障となる事情の改善に資する事項に係る申出職員の意向を確認するための措置」を新たに追加するものであります。

続きまして、第2項、「任命権者は、3歳に満たない子を養育する職員（以下この項において「対象職員」という。）に対して、規則で定める期間内に、次に掲げる措置を講じなければならない」とし、第1号として「対象職員の仕事と育児との両立に資する制度又は措置（次号において「育児期両立支援制度等」という。）その他の事項を知らせるための措置」を加筆し、第2号として「育児期両立支援制度等の請求等に係る対象職員の意向を確認するための措置」を付け加えるものであります。続いて、第3号として「対象職員の3歳に満たない子の心身の状況又は育児に関する対象職員の家庭の状況に起因して発生し、又は発生することが予想される職業生活と家庭生活との両立の支援となる事情の改善に資する事項に係る対象職員の意向を確認するための措置」を新たに加筆するものであります。

続きまして、第3項、「任命権者は、第1項第3号又は前項第3号の規定により意向を確認した事項の取扱いに当たっては、当該意向に配慮しなければならない」と加筆するものであります。

続いて、現行見出し、（配偶者等が介護を必要とする状況に至った職員に対する意向確認等）の規定ですけれども、規定そのものの見出しの部分で下線部、「職員」を「職員等」に改めるものであります。

続きまして、現行「第19条の3」とあるのを改正後は「第19条の4」に改めるものであります。

続いて、その下にまいりまして下線部、「申告、請求又は申出（次条において「請求等」という。）に係る」とあるのを改正後は下線部、「請求等に係る」に改めるものであります。

次のページをお開きください。続きまして、見出し、（勤務環境の整備に関する措置）を規定する現行第19条の4、これを改正後は第19条の5に改めるものであります。

なお、附則といたしまして、施行期日、第1項、この条例は、令和7年10月1日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行するものであります。

第2項として、任命権者は、この条例の施行の日から、以下施行日といいますけれども、前においても、この条例による改正後の更別村職員の勤務時間その他の勤務条件に関する条例第19条の3第2項の規定の例により、同項各号に掲げる措置を講ずることができるものであります。この場合において、その講じられた措置は、施行日以後は同項の規定により講じられたものとみなすものであります。

なお、議案資料として更別村職員の勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則案を提出しておりますので、お目通しをお願いするものであります。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

（なしの声あり）

○議 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで討論を終わります。

これから議案第68号 更別村職員の勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部を改正する条例制定の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第11 議案第69号

○議 長 日程第11、議案第69号 更別村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例制定の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 議案第69号 更別村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例制定の件であります。

更別村職員の育児休業等に関する条例(平成4年更別村条例第7号)の一部を改正する条例を別紙のとおり制定するものであります。

1の理由といたしまして、地方公務員の育児休業等に関する法律の一部を改正する法律(令和7年法律第5号)の施行に伴い、関連する条文を改めるため、この条例を制定するものであります。

2の要旨といたしまして、(1)、育児時間の多様化に係る関係規定の整備に伴い、部分休業の承認につきまして所要の規定を追加するものであります。

(2)、その他所要の改正を行うものであります。

なお、末田総務課長に補足説明をいたさせます。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議 長 末田総務課長。

○総務課長 それでは、補足説明を申し上げます。

地方公務員の育児休業等に関する法律の一部が改正され、育児を行う職員の職業生活と家庭生活の両立を一層容易にするため、国家公務員に準じ、地方公務員の部分休業制度の拡充が図られたことから、地方公務員法の趣旨に沿い、所要の改正を行うものでございます。

1ページをおめくりいただきまして、条例本文でございます。趣旨について規定する第1条中、第5条第2項の次に「(同法第12条及び第19条第6項において準用する場合を含む。)」

を、第10条第1項及び第2項の次に「(同法第11条第2項において準用する場合を含む。)」を加え、「第19条第1項及び第2項」を「第19条第1項から第3項まで及び第5項」に改めるものとごさいます。

部分休業をすることができない職員について規定する第17条第2号中「及び勤務日ごとの勤務時間」を削り、「(以下「定年前再任用短時間勤務職員等」という。)を除く。)」を「を除く。次条において同じ。)」に改めるものとごさいます。

第18条の見出し中「部分休業」を「第1号部分休業」に、同条第1項を「育児休業法第19条第2項第1号に掲げる範囲内で請求する同条第1項に規定する部分休業(以下「第1号部分休業」という。)の承認は、30分を単位として行うものとする。」と改め、次のページを御覧ください。同条第2項及び第3項中「部分休業」を「第1号部分休業」に改めるものとごさいます。

第18条の次に第2号部分休業の承認について規定をする第18条の2を加えまして、第2号部分休業の承認は、1時間を単位として行うこととするものです。ただし、第1号で1回の勤務に係る日ごとの勤務時間に分を単位とした時間がある場合であって、当該勤務時間の全てについて承認の請求があったときは当該勤務時間の時間数、第2号で第2号部分休業の残時間数に1時間未満の端数がある場合であって、当該残時間数の全てについて承認の請求があったときは当該残時間数の第2号部分休業を承認することができることとするものとごさいます。

第18条の2の次に第18条の3を加え、育児休業法第19条第2項の条例で定める1年の期間について規定し、毎年4月1日から翌年3月31日までとするものとごさいます。

次のページを御覧ください。第18条の3の次に第18条の4を加え、育児休業法第19条第2項第2号の人事院規則で定める時間を基準として条例で定める時間について規定し、第1号で非常勤職員以外の職員は77時間30分、第2号で非常勤職員は当該非常勤職員の勤務日1日当たりの勤務時間数に10を乗じて得た時間とするものとごさいます。

第18条の4の次に育児休業法第19条第3項の条例で定める特別の事情について規定する第18条の5を加え、配偶者が負傷または疾病により入院したこと、配偶者と別居したことその他の同条第2項の規定による申出時に予測することができなかった事実が生じたことにより同条第3項の規定による変更をしなければ同項の職員の小学校就学の始期に達するまでの子の養育に著しい支障が生じると任命権者が認める事情を特別の事情とするものとごさいます。

部分休業をしている職員の給与の取扱いについて規定する第19条中「部分休業」を「育児休業法第19条第1項に規定する部分休業」に改めるものとごさいます。

部分休業の承認の取消し事由について規定する第20条は、「育児休業法第19条第6項において準用する育児休業法第5条第2項の条例で定める事由は、職員が第3項変更をしたときとする」と改めるものとごさいます。

次のページを御覧ください。附則第1項でこの条例は、令和7年10月1日から施行するよ

う規定するものでございます。

第2項で育児休業法第19条第2項第2号に掲げる範囲内において、この条例の施行の日から令和8年3月31日までの間における部分休業の承認の請求をする場合におけるこの条例による改正後の更別村職員の育児休業等に関する条例第18条の4の規定の適用については、同条第1号中「77時間30分」とあるのは「38時間45分」と、同条第2号中「10」とあるのは「5」とするよう規定するものでございます。

以上でございます。

○議 長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで討論を終わります。

これから議案第69号 更別村職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例制定の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第12 議案第70号

○議 長 日程第12、議案第70号 北海道町村議会議員公務災害補償等組合理約の変更の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 議案第70号 北海道町村議会議員公務災害補償等組合理約の変更の件であります。

地方自治法（昭和22年法律第67号）第286条第1項の規定により、北海道町村議会議員公務災害補償等組合理約を別紙のとおり変更するものであります。

1の理由といたしまして、加入団体の脱退に伴い、北海道町村議会議員公務災害補償等組合理約別表第1の変更につきまして協議の申出があったことから、地方自治法第290条の規定により議会の議決を求めるものであります。

2の要旨といたしまして、組合理約別表第1中「江差町・上ノ国町学校給食組合」を削るものであります。

次のページをお開きください。規約であります。北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約（昭和43年5月1日地方第722号指令許可）の一部を次のように変更するものであります。

別表第1中「江差町・上ノ国町学校給食組合」を削るものであります。

なお、附則といたしまして、この規約は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第286条第1項の規定による総務大臣の許可の日から施行するものであります。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議 長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

（なしの声あり）

○議 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

（なしの声あり）

○議 長 これで討論を終わります。

これから議案第70号 北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第13 議案第71号

○議 長 日程第13、議案第71号 北海道市町村職員退職手当組合規約の変更の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 議案第71号 北海道市町村職員退職手当組合規約の変更の件であります。

地方自治法（昭和22年法律第67号）第286条第1項の規定により、北海道市町村職員退職手当組合規約を別紙のとおり変更するものであります。

1の理由といたしまして、加入団体の脱退に伴い、北海道市町村職員退職手当組合規約別表（2）、一部事務組合及び広域連合の表の変更につきまして協議の申出があったことから、地方自治法第290条の規定により議会の議決を求めるものであります。

2の要旨といたしまして、組合規約別表（2）、一部事務組合及び広域連合の表、檜山管内の項中「江差町・上ノ国町学校給食組合」を削るものであります。

次のページをおめくりください。規約本文であります。北海道市町村職員退職手当組合規

約（昭和32年1月23日32地第175号指令許可）の一部を次のように変更するものであります。

別表（2）、一部事務組合及び広域連合の表、檜山管内の項中「、江差町・上ノ国町学校給食組合」を削るものであります。

なお、附則といたしまして、この規約は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第286条第1項の規定による総務大臣の許可の日から施行するものであります。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

（なしの声あり）

○議長 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

（なしの声あり）

○議長 長 これで討論を終わります。

これから議案第71号 北海道市町村職員退職手当組合理約の変更の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○議長 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第14 議案第72号

○議長 長 日程第14、議案第72号 北海道市町村総合事務組合理約の変更の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村長 議案第72号 北海道市町村総合事務組合理約の変更の件であります。

地方自治法（昭和22年法律第67号）第286条第1項の規定により、北海道市町村総合事務組合理約を別紙のとおり変更するものであります。

1の理由といたしまして、加入団体の脱退に伴い、北海道市町村総合事務組合理約別表第1及び別表第2の変更につきまして協議の申出がありましたことから、地方自治法第290条の規定により議会の議決を求めるものであります。

2の要旨といたしまして、（1）、組合理約別表第1及び第2中「、江差町・上ノ国町学校給食組合」を削るものであります。

（2）、その他所要の改正を行うものであります。

次のページをお開きください。規約であります。北海道市町村総合事務組合理約（平成31年2月22日市町村第1877号指令）の一部を次のように変更するものであります。

別表第1、檜山振興局(11)の項中「(11)」を「(10)」に改め、「江差町・上ノ国町学校給食組合」を削るものであります。

別表第2の9の項中、同じく「江差町・上ノ国町学校給食組合」を削るものであります。

なお、附則といたしまして、この規約は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第286条第1項の規定による北海道知事の許可の日から施行するものであります。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議長 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議長 長 これで討論を終わります。

これから議案第72号 北海道市町村総合事務組合規約の変更の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

この際、午前11時15分まで休憩いたします。

午前11時02分 休憩

午前11時15分 再開

○議長 長 休憩前に引き続き会議を開きます。

◎日程第15 議案第73号

○議長 長 日程第15、議案第73号 令和7年度更別村一般会計補正予算(第4号)の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村長 議案第73号 令和7年度更別村一般会計補正予算(第4号)の件であります。

第1条として、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2億247万6,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ77億1,925万2,000円とするものであります。

なお、大野副村長に補足説明をいたさせます。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議 長 大野副村長。

○副 村 長 それでは、私のほうから令和7年度更別村一般会計補正予算（第4号）につきまして補足説明を申し上げます。

歳入歳出予算の補正、第1条は歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2億247万6,000円を追加し、77億1,925万2,000円とするもので、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、第1表、歳入歳出予算補正によるものでございます。

歳入歳出予算の補正につきまして、歳入歳出補正予算事項別明細書によりご説明いたします。初めに、歳出からご説明いたします。10ページをお開き願います。款2総務費、項1総務管理費、目1一般管理費は、179万4,000円を追加し、補正後の額を11億9,937万5,000円とするものでございます。説明欄（1）、情報処理導入経費は確定申告に関するシステム導入に係る負担金、（2）、寄付金管理事業は利子分の増です。

目4地方振興費は、1,316万2,000円を追加し、補正後の額を6億5,153万9,000円とするものでございます。説明欄（1）、更別スーパービレッジ構想推進事業は、デジタルどんぐりポイント導入促進業務委託料及び更別スーパービレッジ構想助成金です。委託料は、10月1日からどんぐりスタンプのデジタル発行がスタートします。普及促進のため、10月1日から12月31日までの間、初めて利用される方に対し、特典ポイントとして2,000円分のデジタルどんぐりスタンプを付与するものです。また、負担金補助及び交付金は、10月1日から更別村診療所において発熱外来などの事前予約サービスが始まります。これに合わせて発熱の状況を事前にデジタルで問診を行うための助成金です。

目8村有林管理費は、2万円を追加し、補正後の額を2,814万7,000円とするものでございます。説明欄（1）、村有林整備事業補助事業は、殺鼠剤の購入です。

11ページをお開き願います。目9住民活動費は、43万4,000円を追加し、補正後の額を2,978万7,000円とするものでございます。説明欄（1）、行政区会館維持管理経費は、更南行政区会館のストーブ更新です。

目10財政調整基金費は、8,265万7,000円を追加し、補正後の額を1億961万6,000円とするものでございます。説明欄（1）、財政調整基金積立金は、利子分の増のほか、令和6年度の繰越金が確定したことに伴い財政調整基金に積立金として積み増しするもので、法律に基づき令和6年度繰越金2億1,400万3,000円の2分の1以上を積み増すものです。

目11公共施設等整備基金費は、144万6,000円を追加し、補正後の額を403万1,000円とするものでございます。説明欄（1）、公共施設等整備基金積立金は、利子分の増です。

目12減債基金費は、7万7,000円を追加し、補正後の額を98万4,000円とするものでございます。説明欄（1）、減債基金積立金は、利子分の増です。

項2徴税費、目1税務総務費は、8万5,000円を減額し、補正後の額を381万2,000円とするものでございます。説明欄（1）、税務事務経費は、十勝市町村税滞納整理機構へ引き継ぐ滞納件数確定によるものです。

12ページを御覧願います。項3 戸籍・住民基本台帳費、目1 戸籍・住民基本台帳費は、14万3,000円を追加し、補正後の額2,125万8,000円とするものでございます。説明欄(1)、戸籍住民基本台帳等整備事業は、国民年金システムの改修に伴う負担金です。

項5 統計調査費、目1 各種統計調査費は、3万1,000円を追加し、補正後の額を347万8,000円とするものでございます。説明欄(1)、各種統計調査経費は、国勢調査に関するパートタイム会計年度任用職員の旅費です。

款3 民生費、項1 社会福祉費、目1 社会福祉総務費は、1,798万6,000円を追加し、補正後の額を5億7,999万1,000円とするものでございます。説明欄(1)、国民健康保険特別会計事業勘定繰出金は十勝市町村税滞納整理機構へ引き継ぐ滞納件数確定、(2)、屋内ゲートボール場維持管理経費はストーブの更新、13ページをお開き願います。(3)、障害者総合支援事業は障害者福祉システムの改修に伴う負担金、(4)、社会福祉施設整備事業は現在建設中の更別村福祉ホームで使用する消耗品及び管理用備品などの購入、(5)、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業補助は、低所得者支援及び定額減税補足給付金について、定額減税支給対象見込み者数が当初から増加したことに伴い、事務経費、給付費などを追加するものです。

目2 福祉の里総合センター費は、198万円を追加し、補正後の額を7,505万8,000円とするものでございます。説明欄(1)、給食業務経費は、福祉の里総合センター厨房備品の更新です。

14ページを御覧願います。項2 児童福祉費、目1 児童福祉総務費は、2,024万7,000円を追加し、補正後の額を2億4,295万6,000円とするものでございます。説明欄(1)、児童福祉事業経費は、認定こども園どんぐり保育園の定員超過による減算に伴う扶助費の減額、その減算分を裏で補助するための増額です。

項3 老人福祉費、目2 老人保健福祉センター費は、286万円を追加し、補正後の額を8,803万4,000円とするものでございます。説明欄(1)、老人保健福祉センター維持管理経費は、デイサービスで使用する特殊浴槽の更新です。

款4 衛生費、項1 保健衛生費、目1 保健衛生総務費は、8万円を追加し、補正後の額を1,051万2,000円とするものでございます。説明欄(1)、医療施設等運営補助金は、帯広厚生病院運営費補助額の確定です。

15ページをお開き願います。項3 上水道費、目1 簡易水道費は、2万6,000円を追加し、補正後の額を5,460万4,000円とするものでございます。説明欄(1)、簡易水道事業特別会計繰出金は、人件費の増です。

項4 下水道費、目1 下水道費は、3万9,000円を追加し、補正後の額を1億4,335万3,000円とするものでございます。説明欄(1)、公共下水道事業特別会計繰出金は、人件費の増です。

款6 農林水産業費、項1 農業費、目2 農業振興費は、5,409万3,000円を追加し、補正後の額を4億2,078万9,000円とするものでございます。説明欄(1)、畑作物産地生産体制確立・

強化緊急対策事業補助金は、新規採択に伴うものです。畑作物産地生産体制確立・強化緊急支援事業は、畑作地帯等の畑作物産地における持続的な畑作物産地体制の構築を図るため、労働力不足や病害虫の発生、気候変動、事業構造の変化など、地域、品目ごとの環境変化への対応に向けた取組等への支援で、6月補正予算で17件分を追加しましたが、今回8件新規採択されました。

目5ふるさとプラザ費は、11万7,000円を追加し、補正後の額を2,457万3,000円とするものでございます。説明欄(1)、ふるさと館維持管理経費は、トラクター等作業機器の燃料費です。

16ページを御覧願います。項2林業費、目1林業振興費は、4万7,000円を追加し、補正後の額を1,466万円とするものでございます。説明欄(1)、有害鳥獣駆除対策経費は、緊急銃猟時補償費用保険に加入するものです。

款10教育費、項2小学校費、目1学校管理費は、80万5,000円を追加し、補正後の額を9,362万6,000円とするものでございます。説明欄(1)、学校施設維持管理経費 小学校は、更別小学校2階男子トイレの壁面タイルの修繕です。

項3中学校費、目1学校管理費は、82万1,000円を追加し、補正後の額を6,525万4,000円とするものでございます。説明欄(1)、学校施設維持管理経費 中学校は、更別中央中学校の個別暖房機器の更新などです。

項6保健体育費、17ページをお開き願います。目3学校給食費は、107万円を追加し、補正後の額を10億3,701万6,000円とするものでございます。説明欄(1)、学校給食センター運営経費は、新たにパートタイムの給食補助業務員を採用するものです。

款12公債費、項1公債費、目2利子は、45万円を追加し、補正後の額を1,136万5,000円とするものでございます。説明欄(1)、一時借入金利子は、利子分の増です。

款13諸支出金、項2過年度過誤納還付金、目1過年度過誤納還付金は、217万6,000円を追加し、補正後の額を367万6,000円とするものでございます。説明欄(1)、過年度過誤納還付金は、昨年度の国庫補助金、交付金について支出見込額を追加するものです。

歳出の説明は以上とさせていただきます。

続きまして、歳入についてご説明させていただきます。6ページをお開き願います。款1村税、項1村民税、目1個人は、479万5,000円を追加し、補正後の額を2億6,598万2,000円とするものでございます。実績によるものです。

項2固定資産税、目1固定資産税は、454万円を減額し、補正後の額を3億2,865万8,000円とするものでございます。実績によるものです。

項3軽自動車税、目1軽自動車税種別割は、29万2,000円を追加し、補正後の額を1,428万9,000円とするものでございます。実績によるものです。

款9地方特例交付金、項1地方特例交付金、目1地方特例交付金は、45万8,000円を減額し、補正後の額を198万6,000円とするものでございます。実績によるものです。

7ページをお開き願います。款14国庫支出金、項2国庫補助金、目1総務費国庫補助金は、

268万3,000円を減額し、補正後の額を2億7,715万円とするものでございます。定額減税支給対象者の増加、デジタルどんぐりスタンプの普及促進、デジタル問診の実施などに対する交付金です。

目2民生費国庫補助金は、307万2,000円を減額し、補正後の額を8,366万円とするものでございます。障害者福祉システム改修に伴う補助金のほか、認定こども園どんぐり保育園の定員超過減算に伴う減額です。

款15道支出金、項2道補助金、目2民生費補助金は、330万9,000円を減額し、補正後の額を5,101万円とするものでございます。市町村援護事務交付金の確定のほか、認定こども園どんぐり保育園の定員超過減算に伴う減額です。

目4農林水産業費道補助金は、5,409万3,000円を追加し、補正後の額を3億5,020万5,000円とするものでございます。畑作物産地生産体制確立・強化緊急対策事業の新規採択分です。

8ページを御覧願います。款16財産収入、項1財産運用収入、目2利子及び配当金は、259万8,000円を追加し、補正後の額を1,072万2,000円とするものでございます。各基金の利子分の増及び南十勝森林組合出資配当金です。

款18繰入金、項1基金繰入金、目1財政調整基金繰入金は、1,277万4,000円を減額し、補正後の額を3億1,582万4,000円とするものでございます。歳入、歳出の調整です。

目10寄付金管理基金繰入金は、19万7,000円を追加し、補正後の額を2億2,047万2,000円とするものでございます。利子分の増です。

款19繰越金、項1繰越金、9ページをお開き願います。目1繰越金は、1億6,400万3,000円を追加し、補正後の額を2億1,400万3,000円とするものでございます。前年度繰越金の確定です。

款20諸収入、項5雑入、目6過年度収入は、333万4,000円を追加し、補正後の額を333万5,000円とするものでございます。過年度収入の追加です。

歳入のご説明は以上となります。

令和7年度更別村一般会計補正予算（第4号）の補足説明は以上でございます。

○議 長 お諮りいたします。

議案第73号 令和7年度更別村一般会計補正予算（第4号）の件につきましては、本会議での質疑を3回までとする会議規則第55条の規定を適用しないで審議を進めたいと思います。これにご異議ありませんか。

（異議なしの声あり）

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、議案第73号 令和7年度更別村一般会計補正予算（第4号）の件につきましては、会議規則第55条の規定を適用しないで審議を進めることに決定しました。

説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

6番、荻原さん。

○6番荻原議員 6ページなのですがすけれども、固定資産税で補正額がマイナス454万円ということで、先ほどの補足説明では実績によるものということで説明をいただきました。ただ、固定資産につきましては課税対象物件はそれほど変化はないと思うのですがすけれども、その中で結構、450万円ほどの減額ということで、その辺の内容をもう少し詳しく補足説明いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議 長 小野寺住民生活課長。

○住民生活課長 ご質問のありました固定資産税の現年課税分ということになりますけれども、今お話ありましたように、土地、家屋につきましては当初の見込みどおりで大きく変動はありませんでした。ただし、償却資産分、こちらにつきましては今回大きく影響して減額になった要因になっておりますけれども、償却資産につきましては、その税額の多くを占めるものとして太陽光発電設備になりますけれども、この設備の減価償却費を見込み、計算をしていると。さらに、その他の新たな償却資産、例えば設備投資ですとか新たな機械、こういったものを見込んでいたところでございます。この辺につきましても過去の実績に基づき若干増額になるだろうという想定の下で予算を算出してございました。ただ、しかしながら今回税額の想定が大変難しく、特に近年新型コロナや社会経済の影響もありまして変動額が大きくなる、そういった傾向になってございます。今年度の当初賦課が決定をしまして税額も確定しましたけれども、その実績に基づき補正とさせていただいておりますが、その減額の要因、これは調査しているわけではないのですが、あくまで想定ということですが、近年の社会情勢に伴いまして機械や設備の物価高騰、資材の物価高騰、この辺が大変厳しい状況になっておると。そういう意味では新たな設備投資を、機械の購入などを控えた、そういったことが大きな原因になっているのではないかと考えているところでございます。

以上でございます。

○議 長 6番、荻原さん。

○6番荻原議員 ありがとうございます。内容的には土地、家屋等のものについてはそれほど変わらなかったと。ただ、償却資産、太陽光発電だとか、そういう部分で今回こういうような形の減額補正になったということなのではすけれども、9月の段階でこれだけの減額補正するということは当初の段階でもう分かっていたような気もするのではすけれども、その辺ってどういう状況だったのでしょうか。

○議 長 小野寺住民生活課長。

○住民生活課長 償却資産については、申告については1月なのです。1月というのは、予算策定時については過去の実績で計算をしているのですがすけれども、その年の新たな機械については翌年度に申告をするので、過去の予算算定したときには想定はできなかったというのですか、そういうことでその差が出ているという、そういう状況になっています。

○議 長 1番、太田さん。

○1番太田議員 14ページです。款3民生費、目1児童福祉総務費の説明欄(1)、児童福

社事業経費の2,024万7,000円なのですけれども、どんぐり保育園の定員超過減算によって、国からの補助金なども減っているのですけれども、更別には幼稚園もあつてというところも考えながらいくと、ちょっとこの定員超過と減算によるというところの補足説明をいただきたいのですけれども、いかがでしょうか。

○議 長 酒井子育て応援課長。

○子育て応援課長 認定こども園の運営に係る給付費が定員超過減算されることになりました。定員超過減算の要件につきましては、直前の連続する5年間常に利用定員を超え、かつ各年度の年間平均在所率が120%以上であることとされていましたが、令和7年4月11日付のこども家庭庁事務連絡で5年間の期間を令和7年度より2年間とするとされました。どんぐり保育園においては令和5年度、令和6年度に年間の平均在所率が120%を超えていますので、令和7年度より減算されることになったところです。

子ども一人一人が幼児教育、保育を受けるために月々に必要な経費としまして、大まかには保育者の給料、教材費、園舎の維持管理費、光熱費などの費用を園に在籍する子どもの人数で割ると1人当たりの月々の必要経費が算出されます。これを公定価格といいまして、国の認可基準を守って保育するために最低限必要な経費として設定されています。公定価格では、保育人数が多いほどスケールメリットにより1人当たりの必要経費は安く積算されます。これまでは定員超過していたものの、どんぐり保育園の現定員に基づく単価が適用されて給付費が計算されていましたが、定員を超過して保育している状況が勘案され、減算されるようになりました。どんぐり保育園では、令和7年度は既に事業計画を立て、予算組みをして運営がスタートしています。また、村では待機児童が発生しないよう定員を超えた保育をお願いしてきているところです。待機児童が発生あるいは増加してしまうことを極力避けるということも含め、今年度におきましては減算されることになった額を村で補助し、保育を受け入れていただける体制をつくりたいと考えております。

○議 長 1番、太田さん。

○1番太田議員 在所率が過去5年間から過去2年間に遡ってということで、120%を超えるから、その分減算もされますよと。保育の定員も超過している分も、更別村は待機児童を出さないという考えの下から、どんぐり保育園の定員が超過しても預けることができるようにしていますよということですよ。ちょっとここで問題になってくるのが、では更別幼稚園どうなのだということになると、更別幼稚園の定員は35名に対して23名入れると。ということは、まだ幼稚園にも入るスペースがありますよと。でも、保護者やその子どもたちに好きな教育、保育を受けさせれるよという観点から更別村は待機児童を出さないようにどんぐり保育園にもお願いしていると思うのですけれども、ちょっとやっぱりここまでの減算の関係だとか在所率の関係からいくと、更別保育園、定員50人に対して86名いらっしゃるようです。これ172%です。では、これ運営の基準に関してスペース大丈夫なのかという話もちょうと聞いたのですけれども、本会議の前に。そしたら、運営基準には満たしている。ただ、しかしスペースの確保、ここ実態は、基準は満たしているけれども、とても手狭だと

いうことを聞きました。にもかかわらず、更別村としては待機児童を出したくないからという理由でどんぐり保育園に定員超過して、国の調べでその在所率というものも増えてしまったから一般財源で手出しが出来ますよという、こういう状態に今なっているのが現状です。では、ここで村としての考えとしてこの待機児童を、こういうような状態になっているので、更別幼稚園に促すようにするのか、それとも待機児童が出ていても更別村は行きたい保育、行き届いた保育ということで選べるようにするのか、ちょっとその辺の考えもお聞かせいただければと思います。

○議 長 酒井子育て応援課長。

○子育て応援課長 更別幼稚園におきましては、1号認定ということで教育の認定をされたお子さんが入園しています。どんぐり保育園は令和4年度に認定こども園に変わりましたので、それまでは2号、3号というような保育の認定だったものが1号認定の教育認定の方も保育できるようになっております。待機児童に関しましてはなるべく出たくないというふうに思って、お仕事をされている保護者の方が預け場所に困ることがないようにというふうに思っているところなのですが、更別幼稚園に関しましては1号認定のみの受入れということですので、どんぐり保育園で定員超過している分をそのまま更別幼稚園というふうな部分は難しいかなと思っております。共働きのご家庭が増えまして保育認定申請が増加する中で、村としてはなるべく待機児童を発生させたくないということからどんぐり保育園には定員を超えた受入れを依頼して、それに応えていただいております。もちろん運営基準の面積は満たすということが、それは前提でございます。これにより、保育面積の運営基準は満たしているものの、施設が狭隘になり、保育を行うに当たって必要以上にスペースを工夫して活用しなければならないなどといった大きなご苦勞を強いてしまっているという課題が生じています。こういった課題を解決していかなければなりません、更別幼稚園とどんぐり保育園は廊下でつながっていますので、まずは全体のスペースを有効に活用するための方策を検討したいと考えています。どのように活用していくのがよいのか、活用できるのか検討してまいります。

○議 長 1番、太田さん。

○1番太田議員 今課長の説明にありましてとおり、待機児童はなるべく村としては出たくないよと。令和4年度からこども園の認定に関して変わったので、今どんぐり保育園は1号認定、お父さんだけが働いてお母さん働いていないよ、専業主婦の人もちろん入れるし、2号、3号認定、共働きの家庭でも入れますよと。ということは、裾野が広がっているのですよね、受け入れられる範囲。更別の幼稚園に関しては1号認定に限られているので、ある程度制限ができるよ、だけれども夏休みや冬休み、延長保育などもあるから、預けれる時間はどんぐり保育園ほど長くはないけれども、ある程度一定の期間は預けれますよということでどちらも長い時間預けれるようになっているのですけれども、実際これだけ共働き世帯が増えてくると、なるべく長く預けたい、そういった点の利便性を考えると、どんぐり保育園のほうが要するに早い時間から預けて遅い時間まで預けれる、夏休み、冬休みの

ことも気にしなくていい、給食、お弁当のことも気にしなくていいということに対してやはりニーズというものが、ここもう10年前からもそうだったのですけれども、さらにここ10年で加速されて、認定こども園が1号認定、2号認定、3号認定がもう一緒になってというくくりの中で何も変わらなくなっている。むしろどんぐり保育園のほうが需要が出てきているということを考えれば、今後はやはり更別幼稚園、どんぐり保育園の在り方ということに関しても、考えなければいけないときに来ているのではないかなと思います。

先ほど課長の説明の中にスペースの問題の話あったと思うのですけれども、これ過去にも幼稚園に余っているスペース、どんぐり保育園にも一緒に使って広く仲よく使えばいいではないのという話をしているはずなのです。だけれども、この実態として、やはり園が2つあるということの何かやっぱりぶつかるといえるのか、しがらみみたいなのがあって、なかなか進まない現状があるということを考えて言えば、これも担当課は危機感を持っていると思うのですよね、このスペースに対しても、人の問題に対しても、今後の更別、どんぐり保育園の在り方に対しても危機感担当課は僕は話している限り持っているのだと思います。ただ、これを進めるのは、村長、10年前にも一度そうやって幼保一元化なんて話もあったけれども、結局はここを先延ばしにしている結果が今回の減算や定員超過ということにつながってきて、村として子どもたちのニーズの流れが変わってきたことの表れだと思うのですけれども、スペースの問題、何とか進めながら解決したいよというよりは根本的に保育園、幼稚園の在り方、更別の子どもたちの保育の指針の在り方について問われるときが来たのではないかなと思うのですけれども、その考えはいかがでしょうか。

○議 長 大野副村長。

○副 村 長 議員おっしゃるとおり、そういう重複するような施設、そういったところにつきましては今後検討していかなければいけない時期なのかなとは思っております。そういう問題認識は持っております。

スペースの問題につきましては、どんぐり保育園のほうからも要望を受けまして、子育て応援課、どんぐり保育園、それと更別幼稚園の3者において、どういう活用ができるのかということで打合せを始めるようにという指示はしております。

また、保育園につきましては来年、更別幼稚園、どんぐり保育園もそうなのですけれども、来年度以降の入園者の推移、そういったものを見ながら、今後どういうふうなことができるのかというのは検討する時期だというふうに、そこは認識しております。今後そういったところ、入園者等の数、そういったものを踏まえまして検討していきたいというふうに考えております。

○議 長 1番、太田さん。

○1番太田議員 今副村長から検討していただけると前向きな回答を得られました。なかなか増設、手狭だから増設してよといっても、今は国の補助もなかなか下りないような世の中になってきていますし、なかなか厳しい現状あります。

そして、2号認定、3号認定の続き、やっぱり今共働きということからゼロ歳から1歳、

今回この話は全然関係ないのですけれども、ゼロ歳から1歳も本来3人の受入れに対して7名の申請が出ているようですね、どんぐり保育園。ということは、手狭なのはもう明らかなのです。施設見ても、何とか工夫して、物を縦に載付けたりしてスペースを何とか確保してやっ払いこうというどんぐり福祉会の意欲はすごく見えるのだけれども、やはり安全面に関しても心配なところあるし、これだけの減算、定員超過だよということだけで終わらせないで、ここにある更別の課題ということも前向きに捉えて進めていってほしいと思います。よろしくお願いいたします。

○議 長 では、意見として最後は受け止めておきます。

6番、荻原さん。

○6番荻原議員 今回減算された部分を村が補うという説明でございましたけれども、どんぐり福祉会にしてみればそういう収入がある下で事業計画を立ててやっていく途中でこういう減算ということになると非常に運営は困ると思うのです。今回こういう減算になったという、その時期というのはどの辺の時期でそれが分かったのですか。

○議 長 酒井子育て応援課長。

○子育て応援課長 先ほどの説明とちょっと重複してしまうところが出るかと思います。ご了承いただきたいと思います。減算の条件が5年間常に利用定員を超え、かつ年間の平均在所率が120%以上であることとされていたのですが、これが令和7年4月11日付のこども家庭庁の事務連絡でその5年間が令和7年度より2年間とするとされたので、年度入ってから私たちもそれを理解したというところです。

○議 長 6番、荻原さん。

○6番荻原議員 どんぐり福祉会もそういう収入の部分に基づいて要するに職員の採用だとかいろいろ決めていくと思うのですけれども、今年についてはこの補正で対応することなのですが、来年以降の村の考え方としてはどういう考えですか。例えばその予算内でやってもらう、あるいは足りない分はあくまで村が補填するとか、その辺の村の考え方としては、この部分について改めてちょっと説明お願いしたいと思います。

○議 長 酒井子育て応援課長。

○子育て応援課長 どんぐり保育園さんとその辺り協議しておりまして、今年度内に定員変更を行う予定でございます。令和8年度以降は国の基準に沿って算出される給付費の中で運営していただけるように話をしておりまして、了解いただいております。

○議 長 西山村長。

○村 長 その経過だけでも、私十勝期成会の副会長をやっ払いまして札幌要請を、村長室だよりに書きましたけれども、道に対して年度始まってから、今まで定員オーバーしても公定価格どおりに出していたものをなぜ年度が始まってからするのかと。ほかの町村もこれ影響あるのではないかと。3月予算で定員オーバーしているところもその公定価格、従来の公定価格でやっているわけですから、当初予算はそれで組んでいますよね。では、何で4月11日に、年度が始まって11日に実は2年で打ち切るよというような、こんな

話はちょっとないのではないですかということで道の保健福祉課の幹部にも交渉の中で、交渉というか要請の中で言いました。いうことで、これは実際に組んでいる予算と、途中からはしご外されたのでは、これはうちの施設だけではなくていろんな施設で、文科省の交付金もそうだったのですけれども、突如削られるというのは、これはちょっとあつてはならないことなので、その辺については道のほうからも国に対していろいろと要望もしていただきまして、事情も説明していただくということで、対処はしますけれども、今後については村としても考えますけれども、道としてもその辺はしっかりとやってくださいという形で申入れをしてきました。

以上であります。

○議長 長 4番、尾立さん。

○4番尾立議員 10ページの地方振興費の更別スーパービレッジ構想推進事業の件のところで1点だけ質問させてください。

以前に一般質問させていただいたところからずっと後ろを振り返ってまいりますと、今回のこの最初にポイント付与を加えて利用促進をするようなフレームができていることは大変喜ばしいです。質問した本人としてはとてもうれしく思っております。ありがとうございます。その質問のときに、例えば福引とか、様々などんぐりスタンプ会さんが年間のスケジュールでされている仕組みがどういうふうに新しい仕組みに付け加えるのかというのが不安なのだと商店街の方からお聞きしていたことを話題に上げたかと思います。こういうシステムの組み替えとかデザインの設定の調整とかはこの後また調整され、あるいは追加で予算の中に入ってくるという理解でよろしいでしょうか。

以上です。

○議長 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 今回のスタンプ会への導入促進事業なのですけれども、こちらにつきましては利用促進と消費活動の意欲向上を目的にスタンプ会からの要望があつて、それを受けての予算化ということになります。尾立議員のおっしゃられました福引等のどんぐりスタンプ会の各種事業につきましては、まだ役員会等でどのようにデジタルで進めていくかというところは議論の最中というふうに伺っています。ですので、また改めましてどんぐりスタンプ会と協議をしながら、その辺の方向性ですとか仕組みですとかを決めた上でのまた協議という形になろうかと思しますので、そのようにご理解いただければと思います。

○議長 長 1番、太田さん。

○1番太田議員 スタンプ会の話合いの下ということなのですけれども、ちょっとシステムについてだけ補足で説明いただきたいと思います。

普及促進ということで2,000円分のポイント付与しますよと。では、例えば更別IDで私を持ちましたとなったときに、私の家族も持ちました。そしたら、私の息子たちもID持ちました。あら、ポイントみんなあるけれども、これ合算したいねというときのシステムはもうできているのか、それともこれ進んでいったらまた何千万も何百万もお金かけないで

きませんというふうになるのか、そういったところの進め方はうまくいっているのかというところを補足説明願います。

○議 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 以前より太田議員がおっしゃられておりました家族間でのポイントの譲渡の部分については、当初そのシステムとしては持っていなかったのですが、今システムの改修を終える予定でございまして、10月1日には家族間での譲渡というものはできるようになります。よくありますペイペイで送るとか、ああいった仕組みに近いような形でQRコードでやり取りしてポイントをやり取り、家族間でやり取りできるようになりますので、またそちらの周知等、システムの利用方法等につきましては今月の中旬頃にまた改めまして村民への説明会、あとチラシの配布も、広報での周知も行なってまいりますので、そちらを御覧いただければと思います。

以上です。

○議 長 1番、太田さん。

○1番太田議員 ちょっと続けてなのですが、そういうふうに共有できるように、家族間でのポイント共有できるようになりましたということで、既存のスタンプも残しておきます。あとは更別ID使うのにスマホもあります。では、これスマホ持っていない家族はどうなるのだというところで何かカードみたいなものが出るのか、スマホない人は最初からポイントカード、IDつくれませんよで終わってしまうのか、ちょっとその辺だけ補足で説明願います。

○議 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 スマホをお持ちでない方につきましては、物理カードということでQRコードを個人に配布する予定としております。できればスマートフォンを持っていだいてということをお願いするほうも促していきたいと思っていますので、ソーシャル・ナレッジ・バンクで配布しております無料のスマホ等も活用していただきながら利用促進を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議 長 尾立さん、関連ですか。

○4番尾立議員 関連です。補足していただければと思います。先ほどの太田議員の質問に家族間のポイント譲渡の件がありまして、10月1日には準備が整うとのご説明でした。私の記憶が間違っていなければその分システムの組み替えとかに料金が、料金というか設備費がかかるというふうに途中でお聞きしていたような気がしておるのですが、結局かからないで当初の予算の中で全部できるようになったという理解でよろしいのでしょうか。

以上です。

○議 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 システムの改修費につきましてですが、今回の家族間のやり取りの部分については10月1日に間に合うようにということで既存の予算の中で全て改修は

終わらせる見込みでございます。

以上です。

○議 長 ほかに関連。ありませんね。

ここで昼食のため午後 1 時 30 分まで休憩いたします。

午後 0 時 0 3 分 休憩

午後 1 時 3 0 分 再開

○議 長 休憩前に引き続き会議を開きます。

◎発言の訂正

○議 長 ここで、休憩中に先ほど一般会計補正予算に係る補足説明の訂正について大野副村長より発言を求められておりますので、これを許します。

大野副村長。

○副 村 長 申し訳ございません。一般会計補正予算の補足説明の中で10ページ目、款 2 総務費、項 1 総務管理費、目 4 地方振興費、更別スーパービレッジ構想推進事業の中で説明の中でありましたが、負担金補助及び交付金は、先ほどの説明で10月 1 日から更別村診療所において発熱外来などの事前予約サービスが始まりますというふうに説明させていただきましたが、発熱外来などというところをインフルエンザの予防接種の事前予約サービスが始まりますということになりますので、訂正をお願いいたします。

また、これに合わせて発熱の状況を事前にデジタルで問診を行うための助成金ですというふうにご説明させていただきましたけれども、デジタルを活用して予約される方のその状況を確認を行うための助成金ということで使うということになりますので、こちらのほうも併せて訂正させていただきます。申し訳ございませんでした。

○議 長 説明が終わりました。

皆さん、よろしいですか。

1 番、太田さん。

○1 番太田議員 今のでインフルエンザになったときに予約、問診をデジタルか何かで行うということによろしいのですか。そして、今後発熱外来に関してもそういったことを進めていくという話はあったのですが、それはまだできなくてという話なののでしょうか。今後の展望も含めてちょっとその辺の話聞かせてほしいのですけれども。

○議 長 大野副村長。

○副 村 長 今回10月 1 日から始まるのはインフルエンザの予防接種の事前予約になります。問診という言葉が医療行為というふうな定義にもありますので、その使い方をちょっと確認させていただいたというところで、今回につきましては発熱の状況を事前にデジタルで、例えばいつから気分が悪くなった、発熱が始まったとか、今現在予約するときに体温が

何度あるのかとか、そういうのをスマホ等、そういったところを使って診療所に報告を提出するというものになります。

以上です。

○議 長 皆さん、この件よろしいでしょうか。いいですか。

◎日程第15 議案第73号（続行）

○議 長 では、引き続き質疑に入ります。皆さん、ありませんか。

2番、安村さん。

○2番安村議員 午前中の関係で再度確認させていただきたいと思います。

お昼早々ということであるということ、ということで議長が議案止めましたので、それに対して再度同じような形で継続としていくということで質問させていただきますので、お許しいただきたいと思います。実は先ほどのどんぐり福祉会の関係の説明をいただきまして、種々昼休みを通じてということで自分なりに頭の中で確認していたのですが、まず説明の中で来年度に向けてどんぐり福祉会の関係の定員増の、定員増なのかどうか知らぬけれども、定員変更のまず申請をしていくというご回答がございました。それについて、定員増になるかどうかというのがまず1点。全体的な枠、例えば60人だったら60名、それをどうするかというような話だと思うのですが、まずそれを定員増として申請するのかどうかというのを1点。

定員増の申請に対して、補正にもありましたけれども、国、道の支援の関係の金額分も含めて十分確保できるのかできないのかというのが2点目。

それと、3点目が、これについてはいずれにしても、もし仮に回答として定員増を申請するという形になりますと、午前中太田議員も述べていたように、施設の関係手狭だというのが、実質的に今の段階ではクリアできているという言い方はしていますが、本当に手狭だというのは実態としてあるわけですし、それらの解消をどのような形で図りながら来年度の予算組みも含めてしていくのか、その3点についてまずご説明いただきたいと思います。

○議 長 酒井子育て応援課長。

○子育て応援課長 まず、定員につきましては、ただいま2号、3号の定員が50名ということなのですが、これは増やす方向で話し合いをしています。

金額につきましては、公定価格につきましては保育人数が多いほど1人当たりの必要経費は単純に言いますと安く積算されますが、給付の総額は多くなります。それが十分なのかというと、全てのどんぐり福祉会の経理を把握しているわけではないので、私から何とも言うところはできない部分もありますけれども、定員を増やす中でそれに応じた、基準に沿った給付費の中で運営していただけるように、それを想定して事業計画、予算を立てていって経営して欲しいという話をして、それは今年度の定員超過減算のされる分の補助と併せてトータルで話をしております。それについては了解いただいているところです。

あと、スペースの話につきましては、これも午前中にお話ししたところと重複しますが、今現在更別幼稚園とどんぐり保育園の全体のスペースをどのように、有効に活用していくための方策を検討したいと考えています。どのように活用していくのがいいのか、活用できるのかというところでこの後検討してまいります。

○議 長 2番、安村さん。

○2番安村議員 今説明いただいたのですが、不確定な部分が多いとは思いますが、来年度に向けての重要な施策になりますので、その点もう少しみ砕いた討議をしたいと思うのですが、まず2号、3号の増員、定員の増員に対してという形でございますけれども、全体的には、申し訳ないですが、更別、上更別入れて大体、幼児というか、出生率を見ると大体20名前後ぐらいで推移しているという形で、それが今それぞれの中で分散されているという形なのですが、まず2号、3号の関係の増員という説明されましたけれども、どの程度まず、確定でなくてもある程度、どのぐらいの増員でいきたいのかというのを示していただければありがたいと思います。

あと、増員に伴う運営費の関係ですが、公定価格があり、ある程度の給付はなされるという説明はされていますけれども、ここが一番重要でして、給付がされるのだったら何ら問題ないのですが、給付をされなかった場合についてはやっぱり一般財源を投入するという方法しかなくなると思うのですが、その点の考え方も含めてちょっと説明、今の段階でいいですので、説明いただければありがたいと思います。

○議 長 酒井子育て応援課長。

○子育て応援課長 定員の増員につきましては協議は進めておりますけれども、今その数字が一人歩きされてもちょっと困るところはあるのですが、今話しているところでは50名の定員を80名程度に、2、3号の定員を80名程度に変更する予定で話をしております。

それと、給付費のほうにつきましては、現在定員超過しているものの、現在のどんぐり保育園の現定員に基づく単価が適用されて給付費が積算されています。それは一定の条件でいつか減算されるというところがあるのですが、それを想定、入ってくるという想定で今年度事業計画、そして事業予算を立てて運営開始しておりますので、そこは急な減算に対応することは困難であるということで、今年度その部分は補助をしてまいりたいということでございます。次年度以降は定員を増やして、その定員に見合った基準で、それは公定価格の中で保育をするために最低限必要な経費として設定されている部分で、その基準に沿って入ってくる額、今それが幾らというふうな計算はできていませんけれども、その中で運営していただけるようにお話を進めているところです。

○議 長 2番、安村さん。

○2番安村議員 何度もすみません。ちょっと不確定要因が多い中で質問するのもあれなのですが、ここ重要なので、もう少し明確にしていきたいと思うのですが、財源確保の関係なのですが、給付の関係なのですが、今説明されて、定員はどうなるか分からない部分はありますが、基本的には増員で申請をしたいというのは確

認できました、それについては。ただ、給付の関係なのですね、問題は。ですから、給付がされるように努力はするとは思いますが、基本的には一定率の部分で、全部が給付の、給付というかフォローできればいいのだけれども、もし仮に国の施策なり道の施策の中で多少切れるという形になったら、これは一般財源を投入しなければならないという話になりますよねということの確認をまず1点させてください。それでもやむなしという形で進めるのですねというのが1点です。

それと、その分を確認させていただいて、かつ今回の補正の中でちょっと私なかなか読み取れないのですが、実質的には2,024万7,000円児童福祉総務費で計上して、補正額の財源区分の中で、これは国の支援並びに道の支援がそれぞれ353万8,000円、331万8,000円の減額、いわゆる定員オーバーに対して減額しているという形なのなのですが、かつ一般財源の中で2,710万3,000円という形が補正で今上がってきて、全体的には2,024万7,000円の補正を組みたいという形なのなのですが、ちょっとその内容等が見えないので、内容等の詳細について説明いただければありがたいなと思います。2点です。

○議 長 酒井子育て応援課長。

○子育て応援課長 今回の給付費の定員超過減算につきましては令和7年度に入ってから
の通知で把握したということで、減算される分は村のほうで補助しますけれども、この後現在
想定されているといいますか、規定どおりで計算した給付費、その中で次年度以降は経営
していただけるようにというお話をしているところですが、また今回のように不足に、こ
ちらが想定していない国の制度が変わるだとか、そういった場合にはその都度内部でも
協議しながら、またどんぐり福祉会さんともお話ししながら進めていくことになるのか
なと思っています。

それと、支出のほうです。扶助費が1,091万円の減、これが定員超過減算で扶助費が減額
される分、補助のほうで3,115万7,000円ということで、扶助費において当初予算におきま
しては令和7年度における保育人数の見込みを立てて積算していますけれども、現時点の保
育人数が予算積算時の見込みより多くなっておりまして、補正前の給付費の額が定員超過
減算前の給付費と比較すると既に額が小さいということが差が生じている原因となってい
ます。これは技術的にびったり新年度の保育人数や期間を見込むことは困難でありますの
で、もしそれができていたとしたらこの差額はマイナス、給付費で減らす分と補助金で増
額する分は同額になるところなのなのですが、そういった事情によってここは差が生じて
いるということになります。

○議 長 2番、安村さん。

○2番安村議員 今説明していただいた内容、ちょっと分からないというか、もう一度、こ
の差額の部分というよりも、やっぱりどんぐり保育園の関係というのはもう既に事業年度
が始まる前にある程度入所者、入園者の募集もかけているというのが実態ですよね。その中
で大きく変わるというより、実際に定員オーバーの分は減額になったというのは理解でき
ました。ただ、その分に対してよっぽどのがない限り、増員にならない限りはそんなに

大きなお金が動くという認識はなかったのですけれども、その点捉え方が私がおかしいのか、それとも積算の中で、あくまでも積算積算と言いますけれども、多分1月、2月の段階でもうどんぐり保育園や何かの入所者、希望も多分取ってそれなりに動いていると思うのですけれども、その点の動きというのはどうなのでしょう。ちょっと確認だけさせてください。

○議 長 酒井子育て応援課長。

○子育て応援課長 新年度の予算につきましては年末から調整して、年明けについてはほぼ確定しなければならないというところで、保育の人数が明らかになる、保育の人数というのは年間通して流動的ではあるのですけれども、予算が確定しなければならない時期と4月以降の見込みがある程度出る時期、それを比較するとなかなか正確にその数字を把握することは困難であります。それと、給付費につきましては預かる年齢によって月の公定価格当然違いますし、どの年齢の人がどれだけいるという想定によって、同じ人数でも年齢が違ったり、いつからいつまで預けるのかという、その預かる期間、それによっても変わってくるので、なかなかそこを正確に見通しての予算というのは実際難しいかなと思っています。

○議 長 7番、高木さん。

○7番高木議員 ある程度は今の説明で理解はしたのですが、結局は給付金が入ってくるのが減りますということで、その部分が完全に当初と違って、その部分を今現在に減算された時期に合わせて一緒に補正をするよということですか。もともとはもうちょっと後からでも、給付金の確定してからで補正はできないのですか。この時期に一緒にやるという、その辺の説明もちょっと欲しいです。

○議 長 答弁調整。

休憩します。

午後 1時48分 休憩

午後 1時53分 再開

○議 長 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

酒井子育て応援課長。

○子育て応援課長 何度も同じ説明になって恐縮なのですが、今回定員超過減算ということで、令和7年度に入ってからこども家庭庁からの事務連絡で定員超過の減算されることになりました。定員超過減算される前、本来1人当たりの月々の経費が算出される公定価格、これは国の認可基準を守って保育するために最低限必要な経費として設定されているのですけれども、公定価格では人数が多いほどスケールメリットによりまして1人当たりの必要経費は安く積算されます。これまでは定員超過していたものの、どんぐり保育園の今の現定員に基づく単価が適用されて給付費が計算されていました。令和7年度はその現在の定員に合わせた給付費が給付さるという見込みの下で事業計画、予算を立てて運営しており

ましたが、それが定員を超過して保育している状況が急に勘案されて減算されるようになりました。これは年度が明けてからの通知で想定できなかったところで、これは事故のようなど言ったらちょっと言葉は過ぎるのかもしれませんが、今回特別な事態として理解しております。それで、定員を超過して保育している状況が勘案されて減額されてしまう分はもう入ってくるものだと思って事業計画と予算立てて年度スタートしていますので、その分は今年は特別なケースとして、減算される分は村で補助していきましょうというご提案でございます。

扶助費のほうで今回の補正、もっと状況がはっきりしてからの補正というお話もあったかと思うのですが、扶助費で支出する分はあくまで公定価格を基に施設給付費を計算したルール分の支出として扶助費で出しておりますので、ここで減算されたという事実で、予算はある程度確保して、当初予算で確保扶助費でしていますが、そこから出してしまうと、扶助費はルール分、国の基準どおりに計算した分を支出するような科目だというふうに私捉えておりますので、減算される分は扶助費は落として、これは補助金として増額で補正して議会でお認めいただけないと出せないのではないかという、そういうことで今回補正上げさせていただきました。

○議 長 皆さん、理解できましたか。

(何事か声あり)

○議 長 ちょっと休憩します。

午後 1時59分 休憩

午後 2時02分 再開

○議 長 会議を再開いたします。

ここで答弁調整のため2時15分まで休憩いたします。

午後 2時02分 休憩

午後 2時15分 再開

○議 長 休憩前に引き続き会議を開きます。

酒井子育て応援課長。

○子育て応援課長 それでは、金額について改めて説明させていただきます。

負担金補助及び交付金の3,115万7,000円、これは今8月末現在で86名います。それで、2号、3号の定員が50名なのですが、その50名の単価で計算したところ1億4,011万円、これぐらいが入ってくるだろうと4月の段階で見込んでいた数字です。今回減算が適用されて1億895万3,000円が定員超過減算後の数字になります。この差引き3,115万7,000円が補助金で出したいと提案させていただいている部分です。

扶助費のほうの1,091万円の減額です。これは、当初は2、3号の認定を73名ほどで見込んでいまして、当初予算は1億1,986万4,000円で見えていました。これが8月末現在で2号、3号86名、それで減算後の数字1億895万3,000円、この差額の1,091万1,000円、これは端数の差がありますので、そこはご容赦いただいて1,091万円の減ということになります。繰り返しになりますけれども、当初予算において保育人数の見込み立てて積算していますが、現時点の保育人数が予算積算時より見込みが多くなっていまして、補正前の給付の額は定員超過減算前の給付と比較すると額が小さくなってしまっているの、この差が生じているということになります。

○議 長 よろしいでしょうか。質疑を受けます。

この件はこれでよろしいですね。

(異議なしの声あり)

○議 長 ほかで質疑を受けます。

3番、斎藤さん。

○3番斎藤議員 15ページ、衛生費で上水道費、下水道費それぞれかなりの金額が財源の振替になっていますが、この事情についてご説明いただければと思います。

○議 長 本内企画政策課長。

○企画政策課長 ただいまご質問いただきました上水道費、また下水道費の特定財源の国庫補助金の減額についてですけれども、これはいずれも宅地分譲に係る補助金の分でございまして、歳入でいきますと国庫補助金の総務費補助金の定住化促進団地整備事業補助金、ここを今回1,760万円減額させていただいております、それに関連する減額でございます。金額につきましては歳入の減額分とここの特定財源の合計額が一致していないところなのですけれども、定住化促進団地の国庫補助金につきましては定額補助が根拠になっているものですから、その総額からまず優先される上水道、下水道に充当して、残った分を道路の整備、これは総務費の地方振興費のほうで計上している分になりますが、そこに充当しているところなのですけれども、当初予算で充当していたのは今回減額している数字がそのまま当初予算で計上していたところなのですけれども、今回上下水道は既に工事が発注しておりまして実績額がこの充当額より下回っているところがございまして、差引きで280万円ほど余剰が出るものですから、その分を道路のほうの財源に充当しているため総額では1,760万円の減額になっているということでございます。ちょっと説明が拙くて申し訳ありませんが、簡易水道費の1,182万5,000円と下水道費の812万1,000円、足して1,994万6,000円の財源を減らして、歳入の減額が1,760万円になっていますので、差額の234万6,000円は地方振興費に充当を改めてしているというふうにご理解いただければと思います。

以上です。

○議 長 6番、荻原さん。

○6番荻原議員 17ページ、学校給食費なのですけれども、今回新たにパートタイム給食補助員を置くということなのですが、新年度から新しい施設が稼働するという中で今回のこ

の補正によって新しい給食センターの体制としては整う形になるのかどうか、その辺について詳しく説明していただきたいと思います。

○議 長 小林学校給食センター所長。

○学校給食センター所長 今議員が言われたとおり、新センターの稼働を見据えての補正予算の計上になります。ちょっと具体的なお話になりますが、現在月額のパートタイム会計年度任用職員、調理従事していただいている職員が5名おります。もちろんこの5名、見込みとしては新センターも引き続きということで考えているのですが、今と大きく変わるのが新センターではアレルギー対応食調理室を設けるということで現在建築のほうを進めております。この部屋を回すために単純に調理員が不足すると、アレルギー対応の調理をするために1人追加をしたいというのが大前提の話になります。これを例えば新年度にその1人を採用しますとなると、新センターで厨房機器もほとんどが新しいものに替わりますので、現在の調理員もその操作の習得を図らなければならない。そういった中で、新しく採用した方に業務を教えているいとまが恐らくないだろうと見ております。操作に慣れるまで少なくとも二、三か月はかかるだろうなというふうに思っておりますので、新年度はそれが無理だということで、今のうちから新しく採用する方前倒しで業務のほうをある程度覚えていただきたいということで予算のほうを出させていただきました。

具体的には、想定は今年の11月から年明けまして3月までの5か月間で予算のほうを出させていただいております。この5か月の間で冬休みと春休みがありますので、その日数を除くと実質4か月ほど、たまたまといいますか、今年度2名の方、2名の調理員が入替えになっております。4月から1学期、7月までおおよそ4か月勤めていただいてある程度の業務は覚えていただけたかなと。まだまだ一人では全てできる状態ではないのですが、ある程度はできたかなと。それを見ておおよそ4か月は前倒しで採用させていただきたいなということで予算のほうを出させていただきました。

加えまして、今月額のお話だったのですが、現在月額職員が休暇を取ったときですとか献立が調理業務が繁忙するときのために日額のスポットで入る調理の補助員も採用しております。この方が新年度いろんな事情によって引き続き任用することが難しいのかなというふうに見ておりますので、こちらのほうも入替えになるだろうと見ております。先ほどの話と同じなのですけれども、この入替えの方を4月以降教えるというのが既存の調理員にとってはそのいとまがないというふうに見ておりますので、その日額の調理員についても若干ではありますが、前倒しで採用させていただきたいなと思っております。そちらのほうは年明けてから3学期の日数の中でおおよそ5割程度ということで予算のほうを今回計上させていただきました。議員おっしゃられたとおり、新年度に向けての補正ということでご理解いただければと思います。

以上です。

○議 長 6番、荻原さん。

○6番荻原議員 新しい給食センターということで調理員の方々もかなり勉強しながらや

らなくてはいけないと思いますので、新たに入られる方も戦力ということを考えれば、やっぱりある程度の期間業務に慣れてもらってやっていただくということは非常に重要なことだと思いますので、今後調理員の方極力続けてやっていただけるように業務のほうもいろいろ指導していただきたいなというふうに思います。答弁は結構です。よろしくお願いします。

○議 長 意見として伺っておきます。

ほかありませんか。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで討論を終わります。

これから議案第73号 令和7年度更別村一般会計補正予算(第4号)の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第16 議案第74号

○議 長 日程第16、議案第74号 令和7年度更別村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 議案74号、国民健康保険特別会計補正予算(第2号)の件であります。

第1条であります。事業勘定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ37万2,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ5億9,263万2,000円とするものであります。

まず最初に、事業勘定の歳出からご説明を申し上げます。7ページをお開きください。款1総務費、項2徴税費、目1賦課徴収費は、5,000円を減額し、補正後の予算額を20万円とするものであります。十勝市町村税滞納整理機構の負担金が確定したことによる減額であります。

款3国民健康保険事業費納付金は、当初賦課確定に伴う財源振替となります。

続いて、8ページをお開きください。款6項1目1基金積立金は、8万3,000円を追加し、補正後の額を25万2,000円とするものであります。利子分の増額であります。

款 7 諸支出金、項 3 目 1 過年度過誤納還付金は、29 万 4,000 円を追加し、補正後の額を 29 万 5,000 円とするものであります。前年度特別調整交付金の精算に伴う返還金であります。

続いて、歳入にまいります。5 ページをお開きください。款 1 項 1 国民健康保険税、目 1 一般被保険者国民健康保険税は、924 万 9,000 円を追加し、補正後の額を 2 億 919 万 3,000 円とするものであります。当初の賦課確定に伴う追加であります。

款 4 財産収入、項 1 財産運用収入、目 1 利子及び配当金は、8 万 3,000 円を追加し、補正後の額を 25 万 2,000 円とするものであります。基金利子分の増額による追加であります。

款 5 繰入金、項 1 他会計繰入金、目 1 一般会計繰入金は、5,000 円を減額し、補正後の額を 3,182 万 4,000 円とするものであります。説明欄にまいりまして、事務費対象分は歳出の賦課徴収事務経費の減額によるものであります。

続いて、6 ページをお開きください。項 2 目 1 基金繰入金は、1,059 万 7,000 円を減額し、補正後の額を 2,144 万 4,000 円とするものであります。当初賦課確定による保険税の追加により減額するものであります。

款 6 項 1 目 1 繰越金は、19 万 8,000 円を追加し、補正後の額を 29 万 8,000 円とするものであります。前年度の繰越額の確定により予算を追加するものであります。

款 7 諸収入、項 2 雑入、目 1 雑入は、138 万 9,000 円を追加し、補正後の額を 189 万円とするものであります。医療保険者間の調整による医療費返納金によるものであります。

目 2 保険給付費等交付金は、5 万 5,000 円を追加し、補正後の額を 5 万 6,000 円とするものであります。過年度分の追加交付によるものであります。

以上、ご提案を申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議 長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで討論を終わります。

これから議案第 74 号 令和 7 年度更別村国民健康保険特別会計補正予算(第 2 号)の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第 17 議案第 75 号

○議長 日程第17、議案第75号 令和7年度更別村介護保険事業特別会計補正予算（第2号）の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村長 議案第75号 令和7年度更別村介護保険事業特別会計補正予算（第2号）の件であります。

第1条であります、事業勘定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ835万1,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ4億4,777万8,000円とするものであります。

初めに、事業勘定の歳出からご説明申し上げます。6ページをお開きください。款4基金積立金は、16万9,000円を追加し、補正後の額を22万4,000円とするものであります。介護給付費等における過年度交付などについて積み増しをするものであります。

款5諸支出金、項1目1過年度過誤納還付金は、818万2,000円を追加し、補正後の額を818万3,000円とするものであります。前年度の介護給付費等負担金などの精算に伴う還付金であります。

続いて、歳入にまいります。5ページをお開きください。款6財産収入、項1財産運用収入、目1利子及び配当金は、3万8,000円を追加し、補正後の額を8万3,000円とするものであります。基金積立金預金利子の増額によるものであります。

款8繰越金は、831万3,000円を追加し、補正後の額を831万4,000円とするものであります。前年度の繰越額の確定により追加するものであります。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

6番、荻原さん。

○6番荻原議員 6ページの過年度過誤納還付金の関係でちょっと質問させていただきます。

今回818万2,000円の補正ということなのですが、先ほどの説明では前年度の介護給付費の還付ということなのですが、ちょっと額が大きいので、これ個人に対する還付なのか、その辺の詳しい部分改めて細かいところの回答をお願いしたいと思います。

○議長 新関保健福祉課長。

○保健福祉課長 過年度過誤納還付金の今回補正額818万2,000円の内訳ということですが、今回はこの科目につきましては個人の分は入っておりません。全て前年度のもろもろの交付金で、精算によって、前年度で多くもらっているのです、その分は精算で今年度返すということになります。合わせると6本の交付金の額になります。ちなみに、これは財源としては歳入のほうで繰越金で800万円以上繰り越していると思うのですけれども、これは6年度の会計で既にいただいているものですから繰り越して今年度返還するということにな

っております。

以上です。

○議 長 ほかありませんか。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで討論を終わります。

これから議案第75号 令和7年度更別村介護保険事業特別会計補正予算(第2号)の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第18 議案第76号

○議 長 日程第18、議案第76号 令和7年度更別村簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 議案第76号 令和7年度更別村簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)の件であります。

第1条は総則、第2条は収益的収入及び支出、第3条は議会の議決を経なければ流用することのできない経費を定めております。

初めに、1ページをお開きください。収益的収入及び支出の収入であります。款1簡易水道事業収益は371万4,000円を追加し、補正後の額を1億4,813万3,000円とするものであります。

項2営業外収益、目2他会計補助金は、2万6,000円を追加するもので、人件費の増額に伴い、一般会計から繰入金を追加するものであります。

目4長期前受金戻入は、368万7,000円を追加するもので、令和6年度決算により資産額が確定したことによるものであります。

項3特別利益、目1過年度損益修正益は、1,000円の皆増で、令和6年度における賞与引当金の執行残を収益化するものであります。

続きまして、支出にまいります。款1簡易水道事業費用は、203万8,000円を追加し、補正後の額を1億7,896万3,000円とするものであります。

項1 営業費用、目3 総係費は、2万6,000円を追加するもので、給与改定により、節、手当及び節、法定福利費をそれぞれ追加するものであります。

目4 減価償却費は、199万2,000円を追加するもので、令和6年度決算により資産額が確定したことによるものであります。

項3 特別損失、目1 過年度損益修正損は、2万円の皆増で、令和6年度における指定工事業者更新手数料の未収入分を損失として計上するものであります。

なお、2ページには給与費明細書を掲載しておりますので、お目通しをお願いするものであります。

以上、提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議 長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

6番、荻原さん。

○6番荻原議員 1ページの収入、2、営業外収益の4、長期前受金戻入の関係で先ほど決算額が確定してこういう形で収納されるということなのですが、内容がちょっと分からないので、何がこの戻入額になるのかもうちちょっと詳しく説明いただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議 長 石川建設水道課長。

○建設水道課長 長期前受金戻入につきましては、資産を取得するに当たって受けました収入等を減価償却費と同様に耐用年数で分割しまして、それを各年度ごとに収益として計上するものでございます。補正額の368万7,000円につきましては、令和6年度に取得しました資産に係るもので、花園プラムタウンの造成に伴う水道管新設工事、こちらに対する国庫補助金ですとか、また道営営農用水事業につきましては事業費の27.5%が村の負担額となりますけれども、この27.5%の村の負担分を除いた北海道と国の負担分、こちらなどとなっております。

以上でございます。

○議 長 ほかありませんか。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで討論を終わります。

これから議案第76号 令和7年度更別村簡易水道事業特別会計補正予算(第2号)の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第19 議案第77号

○議 長 日程第19、議案第77号 令和7年度更別村公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 議案第77号 令和7年度更別村公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）の件であります。

第1条は総則、第2条は収益的収入及び支出、第3条は議会の議決を経なければ流用することのできない経費を定めております。

1ページをお開きいただきたいというふうに思います。収益的収入及び支出の収入であります。款1下水道等事業収益は、2万8,000円を追加し、補正後の額を1億5,724万8,000円とするものであります。

項2営業外収益、目2他会計補助金につきましては、3万9,000円を追加するものであります。人件費の増額に伴い、一般会計からの繰入金を追加するものであります。

目5長期前受金戻入は、1万2,000円を減額するもので、令和6年度決算により資産額が確定したことによるものであります。

項3特別利益、目1過年度損益修正益は、1,000円の皆増で、令和6年度における賞与引当金の執行残を収益化するものであります。

続きまして、支出にまいります。款1下水道等事業費用は、20万9,000円を追加し、補正後の額を1億9,864万8,000円とするものであります。

項1営業費用、目3総係費につきましては、3万9,000円を追加するものであります。主に人事異動により、節、手当及び節、法定福利費をそれぞれ追加するものであります。

目4減価償却費は、17万円を追加するもので、令和6年度決算により資産額が確定したことによるものであります。

なお、2ページには給与費明細書を掲載しておりますので、お目通しをお願いするものであります。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議 長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

（なしの声あり）

○議 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで討論を終わります。

これから議案第77号 令和7年度更別村公共下水道事業特別会計補正予算(第2号)の件
を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第20 議案第78号

○議 長 日程第20、議案第78号 動産の買入の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 議案第78号 動産の買入の件であります。

学校給食センター厨房機器購入事業の売買契約を次のとおり締結しようとするものであります。

1、事業名は、学校給食センター厨房機器購入事業。

2、納入場所は、更別村字更別南1線101番地。

3、契約の方法は、指名競争入札による落札であります。

4、契約金額は、1億283万9,000円であります。

5、契約の相手方は、河西郡更別村字更別南1線91番地、株式会社ヤマジョウ代表取締役、
太田智範様であります。

理由といたしまして、売買契約の締結につきましては、更別村議会の議決に付すべき契約
及び財産の取得又は処分に関する条例(昭和39年更別村条例第7号)第3条の規定により議
会の議決を求めるものであります。

続きまして、資料のほうでご説明申し上げます。資料の78号をお開きください。

1、入札日時は、令和7年9月3日午前10時であります。

2の指名業者は、記載のとおりですので、お目通しをお願いいたします。

3の事業内容は、厨房機器、水栓、諸経費を含めてそれぞれの詳しい内容については記載
のとおりでありますので、お目通しをお願いするものであります。

4の納期ですが、契約締結の日から令和8年3月19日までであります。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議 長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議長 長 これで討論を終わります。

これから議案第78号 動産の買入の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議長 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎日程第21 議案第79号

○議長 長 日程第21、議案第79号 動産の買入の件を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村長 議案第79号 動産の買入の件であります。

学校給食センター調理用具等購入事業の売買契約を次のとおり締結しようとするものであります。

1、事業名、学校給食センター調理用具等購入事業。

2、納入場所、更別村字更別南1線101番地。

3、契約の方法、指名競争入札による落札。

4、契約金額、823万9,000円であります。

5、契約の相手方、河西郡更別村字更別南1線91番地、株式会社ヤマジョウ代表取締役、太田智範氏であります。

理由といたしまして、売買契約の締結につきましては、更別村議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例（昭和39年更別村条例第7号）第3条の規定により議会の議決を求めるものであります。

続きまして、資料79号を御覧ください。

1、入札日時は、令和7年9月3日午前10時であります。

2の指名業者につきましては、記載のとおりであるので、お目通しをお願いいたします。

3の事業内容は、高性能保温食缶、以下記載のとおりでありますので、お目通しをよろしくお願いします。

4の納期は、契約締結の日から令和8年3月19日までであります。

以上、ご提案申し上げ、ご審議方をよろしくお願い申し上げます。

○議長 長 説明が終わりましたので、これから本案に対する質疑を行います。

質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで質疑を終わります。

これから本案に対する討論を行います。

討論の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 これで討論を終わります。

これから議案第79号 動産の買入の件を採決いたします。

本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

この際、午後3時まで休憩いたします。

午後 2時50分 休憩

午後 3時00分 再開

○議 長 休憩前に引き続き会議を開きます。

◎日程第22 認定第1号ないし日程第27 認定第6号

○議 長 この際、関連がありますので、日程第22、認定第1号 令和6年度更別村一般会計歳入歳出決算認定の件から日程第27、認定第6号 令和6年度更別村公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定の件までの6件を一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

西山村長。

○村 長 認定第1号 令和6年度更別村一般会計歳入歳出決算認定の件から認定第6号 令和6年度更別村公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定の件まで一括して、地方自治法第233条第3項及び地方公営企業法第30条第4項の規定に基づき、監査委員の審査意見を添えて提出するものであります。

また、資料といたしまして、各会計決算資料と地方自治法の各条項の規定に基づき、各部門別主要な施策の成果及び予算執行の実績の概要、基金管理運用状況調等を提出しているところであります。

令和6年度におきましても物価高騰の影響を受けながら各方面に及び、その都度議会の理解をいただき、補正予算等により様々な対応策を重ねてまいりました。また、第6期更別村総合計画は7年目となり、各分野、領域における施策の確実な実行、K P I等の目標達成に向けまして全力を傾注してきたところであります。地方財政が依然として厳しい状況の中、引き続き可能な限りの財源、財政措置を行い、健全な財政運営に努めながら、山積する

村政の課題解決に心がけてきたところであります。村の基幹産業である農業、商工業振興、医療、福祉、介護や教育、子育て支援、地方創生やスマート農業等に関わる各種施策に全力で取り組んでまいりました。引き続き、採択されました新しい地方経済・生活環境創生交付金を活用した更別村スーパービレッジ構想の実現に向けて邁進してまいります。改めまして議会の皆様をはじめ村民の皆様方の多大なご理解とご協力にお力をいただいていることに心よりお礼と感謝を申し上げる次第であります。

各会計の決算状況は、提出議案の更別村各会計歳入歳出決算書によるところであります。説明につきましては資料として提出の各会計決算資料に基づきまして説明をさせていただきます。

それでは、令和6年度各会計決算資料の1ページをお開き願いたいというふうに思います。1ページは、各会計別決算状況の一覧であります。各会計の決算額等につきましては、この後会計ごとにご説明申し上げますので、ここでの説明は省略させていただきます。各会計とも歳入確保がなされた上に、総体的に健全財政が保たれたものと考えているところであります。

続きまして、2ページをお願い申し上げます。一般会計財政収支の状況であります。本年度の歳入につきましては69億2,722万7,000円、歳出にありましては67億950万9,000円、歳入歳出差引額は2億1,771万8,000円、翌年度に繰り越すべき財源は371万5,000円、実質収支であります。2億1,400万3,000円、前年度の実質収支が2億5,955万円でしたので、単年度収支はマイナス4,554万7,000円となっております。引き続き財政調整基金についてご説明を申し上げます。積立金として前年度繰越金の2分の1を含む1億3,013万7,000円を積み立て、2億3,201万5,000円を取り崩しました。なお、繰上償還金はゼロ円で、最終的な実質単年度収支はマイナス1億4,742万5,000円となったところであります。

続きまして、3ページをお願いします。3ページは、一般会計歳入歳出決算構成表の歳入であります。ここでは主なもののみ申し上げます。1の村税に関しましては、定額減税の実施による個人村民税の減少などにより、全体として2,409万5,000円の減となりました。ただし、9の地方特例交付金におきましては減収補填分の交付がありましたので、こちらは前年度と比べて1,432万8,000円の増となっております。村財政の柱となる10の地方交付税につきましては、前年度対比4.0%の増となっております。普通交付税が増えた主な要因としては、辺地対策事業債の償還金が3,373万4,000円増加したことによるものであります。前年度と比較して普通交付税が1億2,408万8,000円の増、特別交付税が2,440万2,000円の減となりました。12の分担金及び負担金につきましては、道営事業の分担金収入の減により、前年度と比べ1,404万の減であります。14の国庫支出金につきましては、2億1,055万3,000円の減であります。デジタル田園都市国家構想推進交付金が減少したことが主な理由であります。17の寄附金については、ふるさと納税収入の増により1億1,207万6,000円の増であります。18の繰入金は、可能な限り各基金からの繰入れ圧縮に努めたほか、公共施設等整備基金の取崩し額が比較的少なかったため、4,585万9,000円の減となりました。最後に、21の村債

ですが、6,883万2,000円の増となりました。なお、令和3年度からより有利な起債であります辺地対策事業債の借入れを行っております。普通交付税措置率は80％であります。全体としては財源の確保が厳しい状況の中ではありますけれども、でき得る限り有利な財源を確保するように努めてまいりました。

続きまして、4ページの歳出であります。主なもののみ申し上げます。2の総務費につきましては、前年度より4億3,275万8,000円、21%の増となっております。寄付金管理事業、公共施設等整備基金積立金の増が主な理由であります。3の民生費につきましては、前年度より4,052万、5.1%の増となっております。認定こども園施設型給付費の増が主な理由であります。4の衛生費につきましては、前年度より4,242万3,000円、9.5%の減となっております。診療施設勘定への繰出金が減少したことが主な理由であります。6の農林水産業費につきましては、前年度より8,425万4,000円、11.8%の減となっております。道営事業負担金の減が主な理由であります。8の土木費につきましては、前年度より1,517万1,000円、2.4%の減となっております。除雪対策経費の減が主な理由であります。10の教育費につきましては、前年度より8,593万5,000円、13%の増となっております。繰越事業として実施をいたしました学校施設の空調設備設置工事に係る事業費の増などが主な理由であります。12の公債費は、前年度より6,469万7,000円の減となっております。償還元金の減少が主な理由であります。

次に、5ページから16ページまでの各種参考資料につきましては、お目通しをお願いしたいというふうをお願い申し上げます。

続きまして、17ページをお開きください。特別会計財政収支の状況であります。まず、国民健康保険特別会計事業勘定であります。歳入は6億755万8,000円、歳出は6億726万円、歳入歳出差引き29万8,000円が実質収支であります。単年度収支はプラス15万1,000円となったところであります。基金につきましては、7万6,000円を積み立て、3,270万3,000円を取り崩しております。診療施設勘定にまいりまして、歳入は3億8,635万8,000円、歳出が3億8,625万8,000円、歳入歳出差引額につきましては10万円、実質収支も同額であります。

後期高齢者特別会計にまいりまして、歳入につきましては6,307万円、歳出6,285万円、歳入歳出差引額につきましては22万円で、実質収支も同額であります。単年度収支は、マイナス22万3,000円となったところであります。

次に、介護保険事業特別会計にまいります。事業勘定では、歳入は4億3,250万1,000円、歳出は4億2,418万6,000円、歳入歳出差引額831万5,000円、実質収支も同額であります。単年度収支につきましてはプラス384万9,000円となったところであります。基金につきましては、103万5,000円を積立てし、69万7,000円を取り崩しております。次に、サービス事業勘定にまいります。歳入226万7,000円、歳出208万8,000円、歳入歳出差引額は17万9,000円、実質収支も同額であります。単年度収支はマイナス2万9,000円となったところであります。

続きまして、18ページにまいります。18ページは、国民健康保険特別会計事業勘定歳入歳出決算構成表であります。引き続き健全な運営となっているところであります。なお、国保

運営は北海道広域で行っており、令和12年度保険料の統一に向けた保険税率の見直しが必要となりますので、国民健康保険事業基金を活用するなど、急激な引上げにならないよう引き続き健全化に努めてまいります。

19ページ、20ページの国保事業の状況につきましては、お目通しをお願い申し上げます。

続きまして、21ページにまいります。国民健康保険特別会計診療施設勘定歳入歳出決算構成表であります。今年度は歳入歳出ともに28.5%の減となっております。歳入の診療収入は、前年度比7.4%の減となりました。歳出の総務費は、前年度に施設改修事業の大半が終了したことにより減額となりました。公債費につきましては、前年度に借り入れた長期債の償還が始まったことにより増加しております。国の医療費抑制政策の中で診療所関係の診療報酬算定には引き続き厳しい状況が続いておりますが、本村は家庭医療学センターとの連携により医療体制の安定化が図られているものと考えております。その他の項目につきましては、お目通しをお願いするものであります。

続きまして、22ページをお願いします。後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算構成表であります。今年度は歳入が5.1%、歳出が5.5%、それぞれ増となっております。ほかの点につきましては、お目通しをお願いするものであります。

23ページにまいりまして、介護保険事業特別会計事業勘定歳入歳出決算構成表であります。保険給付費につきましては、介護サービスの利用者増により増加傾向にあります。全体的には微増が続いておりますが、3年に1度保険料を見直すなど適正運営に努めており、一部基金繰入金を活用するなど健全化に努めているところであります。下の段の同会計サービス事業勘定歳入歳出決算構成表ですが、お目通しをお願いするものであります。

次の24ページの事業の状況につきましてもお目通しをお願い申し上げます。

続きまして、25ページにまいります。財政指数等に関する表であります。標準財政規模であります。31億9,036万5,000円となっております。村が標準的な状態で通常収入するであろう経常的一般財源の規模を示す額であります。次の財政力指数、3か年平均であります。0.250ということで前年度と比べて微減となっております。公債費負担比率につきましては14.2%、前年度より0.9ポイントの減となっております。実質公債費比率であります。5.2%となり、前年度より1.2ポイント減少しております。比率は3か年平均となっております。令和6年度の単年度では4.7%であり、今後数年間はこの程度で推移すると予想されます。経常収支比率ですが、71.4%で、2.1ポイントの減となっております。減の理由といたしましては、経常的収入である普通交付税が増えたことにより算定式の分母が増加したためであります。次に、村税の徴収率であります。現年課税分につきましては99.9%、滞納繰越分については7.7%、合計で99.8%となったところであります。滞納繰越分につきましては、前年度より4.8%上がっております。

26ページ以降の参考数値につきましては、お目通しをお願いしたいというふうに思います。

続きまして、令和6年度簡易水道事業特別会計決算書を御覧ください。初めに、1ページ

をお開きいただきたいというふうに思います。令和6年度更別村簡易水道事業決算報告書であります。1、収益的収入及び支出、収入の決算総額は1億5,866万715円、支出の決算総額は1億6,615万4,949円であります。

2ページをお開きください。資本的収入及び支出、収入の決算額総額は1億4,720万円、支出の決算額は1億4,948万2,609円であります。

3ページから6ページまでは財務諸表であります。7ページから13ページまでは令和6年度更別村簡易水道事業報告書、14ページ以降は決算附属明細書でありますので、お目通しをお願いいたします。

続きまして、更別村公共下水道事業特別会計決算書を御覧ください。1ページをお開き願いたいというふうに思います。1、令和6年度更別村公共下水道事業決算報告書であります。収益的収入及び支出、収入の決算総額は1億6,359万9,718円、支出の決算額総額は2億8,304円であります。

2ページをお開きください。資本的収入及び支出、収入の決算額は1億1,166万5,400円、支出の決算総額は1億358万8,063円であります。

3ページから6ページまでは財務諸表であります。7ページから14ページまでは令和6年度更別村公共下水道事業報告書、15ページ以降は決算附属明細書でありますので、お目通しをお願い申し上げます。

次に、更別村各会計歳入歳出決算書がありますが、200ページから財産に関する調書があります。これにつきましてはお目通しをお願いするものであります。

その他各提出資料につきましてもご参照いただきたいと思います。

以上、説明といたします。よろしくご認定方をお願い申し上げます。

○議 長 お諮りいたします。

認定第1号 令和6年度更別村一般会計歳入歳出決算認定の件から認定第6号 令和6年度更別村公共下水道事業特別会計歳入歳出決算認定の件までの6件につきましては、本会議での質疑を3回までとする会議規則第55条の規定を適用しないで審議を進めたいと思います。これにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、認定第1号から認定第6号までの6件につきましては、会議規則第55条の規定を適用しないで審議を進めることに決定いたしました。

審議の方法についてお諮りいたします。一般会計は款ごとに歳出決算、次に歳入決算の順に、国民健康保険特別会計事業勘定は歳出決算、次に歳入決算の順に、国民健康保険特別会計診療施設勘定及び他の特別会計は歳入歳出一括で補足説明を受け、質疑を行います。その後会計決算ごとに討論、採決を行いたいと思います。これにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

それでは、一般会計歳出から質疑に入ります。

41ページ、款1 議会費に入ります。

補足説明を求めます。

末田総務課長。

○総務課長 議会費の説明に入ります前に、一般会計の各科目及び特別会計に関係があります人件費について説明をさせていただきます。一般会計は、議会費で一般職2名、総務費で特別職2名及び一般職59名、農林水産業費で一般職2名、教育費で特別職1名及び一般職15名に係る人件費を支出しています。特別会計では、国民健康保険特別会計診療施設勘定で一般職11名、介護保険事業特別会計事業勘定で一般職2名、簡易水道事業特別会計で一般職2名、公共下水道事業特別会計で一般職1名に係る人件費を支出しています。全会計で特別職3名、一般職94名、合計97名分の人件費を支出しています。常勤特別職及び一般職の人件費は、総額で7億7,667万6,906円、前年度比較で3,019万1,703円、4.05%の増となっています。給料で1,230万2,504円、3.33%の増となっており、昇給、昇格に伴う異動で484万6,800円の増、給料表の改定に伴う異動で1,006万6,800円の増、職員の退職で871万200円の減、職員の採用で870万7,500円の増、その他の異動で260万8,396円の減となっています。職員手当等では1,293万2,901円、5.87%の増となっており、期末手当基礎額に乗ずる支給率の改正などにより期末手当が672万1,728円の増、勤勉手当基礎額に乗ずる成績率の改正などにより勤勉手当が594万8,159円の増、時間外勤務手当が185万1,517円の減、児童手当が141万円の増となっております。共済費は128万7,867円の増となっています。標準報酬月額、負担金率の変更などによるものです。退職手当組合及び福祉協会負担金は366万8,431円の増となっています。退職手当組合負担金で令和4年度及び5年度における事前納付金と追加負担金との清算が行われ、清算納付金が発生したことにより増額となっています。

これより予算科目単位で特徴的な経費など、特に説明が必要と思われる事項を中心に各課長等より説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

議会費について補足説明をさせていただきます。41ページ、42ページをお開きください。款1 項1 目1 議会費は、予算現額5,034万円、支出済額5,006万5,576円で、不用額は27万4,424円となっています。備考欄を御覧ください。(1)、議員報酬等は、議会議員の報酬、手当等の経費で、支出済額は2,935万4,480円です。(2)、議会運営経費は、議員費用弁償、議員研修視察費用弁償、議会広報の印刷製本費、議事録作成業務委託料、十勝町村議会議長会負担金が主なもので、支出済額は300万9,474円です。(3)、職員等人件費は、議会事務局職員2名の給料、職員手当等の経費で、支出済額は1,759万4,262円です。

以上で議会費の補足説明を終わります。

○議 長 説明が終わりました。

質疑の発言を許します。

(なしの声あり)

○議 長 では次に、同じく41ページ、款2 総務費に入ります。

補足説明を求めます。

末田総務課長。

○総務課長 総務費について補足説明をさせていただきます。

款 2 総務費、項 1 総務管理費、目 1 一般管理費は、予算現額12億1,643万5,000円、支出済額11億7,874万2,718円で、不用額は3,769万2,282円となっています。節 3 職員手当等の不用額93万9,870円の内容は、主に備考欄 (13)、職員等人件費の職員手当等一般職で89万6,918円の執行残が生じたことによるものです。節 4 共済費の不用額342万9,617円の内容は、主に備考欄 (11)、パートタイム会計年度任用職員等管理事務経費の会計年度任用職員共済組合負担金で34万7,439円、会計年度任用職員社会保険料で35万9,427円、(13)、職員等人件費の一般職員共済組合負担金で263万4,319円の執行残が生じたことによるものでございます。43ページ、44ページを御覧ください。節 7 報償費の不用額45万9,691円の内容は、主に備考欄 (15)、寄付金管理事業の寄附採納贈呈品で40万9,398円の執行残が生じたことによるものです。節 8 旅費の不用額36万2,333円の内容は、主に備考欄 (4)、総務管理一般事務経費の普通旅費で33万8,823円の執行残が生じたことによるものです。節10需用費の不用額97万8,932円の内容は、主に備考欄 (3)、庁舎維持管理経費の庁舎燃料費で64万25円、庁舎光熱水費で7万3,931円、備品修繕費で5万円、庁舎修繕費で4万5,748円、(4)、総務管理一般事務経費の食糧費で4万5,801円、(6)、情報処理管理事務経費—OA機器管理の備品修繕費で5万3,342円の執行残が生じたことによるものです。節11役務費の不用額723万4,153円の内容は、主に備考欄 (15)、寄付金管理事業の運搬料で688万1,630円、広告掲載料で14万8,226円の執行残が生じたことによるものです。節12委託料の不用額132万2,557円の内容は、主に備考欄 (10)、職員福利厚生経費の総合健診診断委託料で8万6,000円、(15)、寄付金管理事業のふるさと納税業務委託料で112万6,698円の執行残が生じたことによるものです。節13使用料及び賃借料の不用額39万6,107円の内容は、主に備考欄 (15)、寄付金管理事業の寄付用システム賃借料で36万9,258円の執行残が生じたことによるものです。節18負担金補助及び交付金の不用額48万6,372円の内容は、主に備考欄 (6)、情報処理管理事務経費—OA機器管理の北海道自治体情報システム協議会負担金で43万6,154円の執行残が生じたことによるものです。節24積立金の不用額2,177万5,052円の内容は、(15)、寄付金管理事業の寄付金管理基金積立金寄附分で2,177万5,052円の執行残が生じたことによるものです。41ページ、42ページをお開きください。備考欄 (1)、総務関係委員会等運営事業は、表彰者選考委員会、使用料等審議会等の委員報酬、旅費、費用弁償で、支出済額は13万1,500円です。(2)、功労者等表彰事業経費は、村功労者表彰に係る記念品の購入、表彰状、しおりの印刷に要する経費で、支出済額は34万4,857円です。43ページ、44ページをお開きください。(3)、庁舎維持管理経費は、庁舎の燃料費、光熱水費、修繕費、警備業務、清掃業務の委託料が主なもので、支出済額は2,196万9,075円です。(4)、総務管理一般事務経費は、消耗品費、郵便料、複写機使用料、北海道市町村総合事務組合、十勝町村会などへの負担金が主なもので、支出済額は1,730万8,311円です。(5)、契約事務経費は、契約事務に係る旅費及

び消耗品費で、支出済額は2万7,719円です。(6)、情報処理管理事務経費—OA機器管理は、北海道電子自治体共同運営協議会運用委託料、北海道自治体情報システム協議会負担金、地方公共団体情報システム機構負担金が主なもので、支出済額は4,862万743円です。(7)、共通物品等調達経費は、事務用消耗品の購入、封筒の印刷に要する経費で、支出済額は243万2,509円です。(8)、出納一般事務経費は、支払い通知用窓付封筒印刷費、振込手数料が主なもので、支出済額は114万7,128円です。45ページ、46ページをお開きください。(9)、職員研修経費は、職員研修に係る旅費、負担金で、支出済額は53万3,829円です。(10)、職員福利厚生経費は、職員の総合健診診断委託料、各種検診委託料、メンタルヘルスサポート委託料が主なもので、支出済額は441万4,116円です。(11)、パートタイム会計年度任用職員等管理事務経費は、パートタイム会計年度任用職員に係る報酬、共済組合負担金、社会保険料、労働保険料等で、支出済額は2,065万2,010円です。(12)、フルタイム会計年度任用職員給与等は、フルタイム会計年度任用職員に係る給料、職員手当等で、支出済額は639万115円です。(13)、職員等人件費は、村長部局の職員61名分の給料、職員手当等で、支出済額は4億8,223万8,657円です。(14)、情報処理導入経費は、事務用備品購入費及び北海道自治体情報システム協議会負担金で、支出済額は3,873万411円です。(15)、寄付金管理事業は、寄附採納贈呈品の購入費、運搬料、ふるさと納税業務委託料、寄付用システム賃借料、寄付金管理基金積立金などで、支出済額は5億2,920万1,738円です。47ページ、48ページをお開きください。(16)、DX推進事業は、地域活性化起業人制度による職員派遣負担金で、支出済額は460万円です。

目2文書広報費は、予算現額436万4,000円、支出済額435万5,018円で、不用額は8,982円です。備考欄(1)、文書事務管理経費は、法令集追録代、例規更新データ作成委託料が主なものでございます。

目3財産管理費は、予算現額132万8,000円、支出済額117万9,108円で、不用額は14万8,892円です。備考欄(1)、村有住宅等維持管理経費は、村有住宅の修繕費等の経費で、支出済額は18万9,979円です。(2)、財産維持管理経費は、村有地の草刈り業務委託料等の経費で、支出済額は35万6,992円です。(3)、村有財産整備事業は、村有地の測量委託料等の経費で、支出済額は63万2,137円です。

目4地方振興費は、予算現額6億182万7,000円、支出済額5億9,586万1,020円で、不用額は596万5,980円となっています。節10需用費の不用額48万4,632円の内容は、主に備考欄(14)、定住化促進住宅維持管理経費の定住化促進住宅修繕費で4万円、(15)、地域創造複合施設維持管理経費の地域創造複合施設修繕費で40万円の執行残が生じたことによるものでございます。49ページ、50ページをお開きください。節18負担金補助及び交付金の不用額532万1,330円の内容は、主に備考欄(2)、結婚支援事業の結婚新生活支援事業補助金で60万円、(21)、地域公共交通計画策定事業の更別村地域公共交通活性化協議会助成金で171万6,880円、移住定住促進事業 臨時分のわくわく地方生活実現政策パッケージ事業交付金で300万円の執行残が生じたことによるものでございます。47ページ、48ページをお開きくだ

さい。備考欄（１）、各種要請・施策調査経費は、要請、施策調査に係る旅費で、支出済額は98万458円です。（２）、結婚支援事業は、結婚新生活支援事業補助金で、支出済額は43万2,000円です。（３）、宅地分譲事業経費は、広告掲載料、登記事務嘱託手数料で、支出済額は38万1,700円です。49ページ、50ページをお開きください。（４）、宅地分譲整備事業は、主に花園プラムタウン宅地造成工事費で、支出済額は9,222万2,900円です。（５）、生活交通路線維持対策事業は、生活交通路線維持費補助金で、支出済額は1,552万5,000円です。（６）、ふるさと創生事業は、ふるさと創生事業助成金で、支出済額は50万4,000円です。（７）、上更別地域活性化対策事業は、上更別地区活性化事業助成金で、支出済額は450万円です。（８）、デジタル活用支援事業は、地域活性化起業人制度による派遣職員負担金で、支出済額は2,053万円です。（９）、更別スーパービレッジ構想推進事業は、更別スーパービレッジ構想助成金で、支出済額は3億8,355万2,000円です。（10）、地方創生テレワーク事業は、進出企業定着・地域活性化支援事業補助金で、支出済額は1,500万円です。（11）、夢大地さらべつ推進委員会運営経費は、夢大地さらべつ推進委員会の委員報酬、旅費、費用弁償で、支出済額は26万4,540円です。（12）、企画政策事務経費は、十勝圏複合事務組合運営負担金、十勝圏活性化推進期成会負担金が主なもので、支出済額は83万8,298円です。（13）、移住定住促進事業 経常分は、北海道移住促進協議会負担金、講習会負担金で、支出済額は6万2,500円です。（14）、定住化促進住宅維持管理経費は、定住化促進住宅災害保険料で、支出済額は1,545円です。51ページ、52ページをお開きください。（15）、地域創造複合施設維持管理経費は、地域創造複合施設建物災害保険料、管理委託料で、支出済額は938万6,591円です。

（16）、地域振興財産維持管理経費は、ポケットパーク管理業務委託料、草刈り業務等委託料が主なもので、支出済額は97万2,356円です。（17）、バス待合所維持管理経費は、バス待合所の光熱水費、管理業務委託料が主なもので、支出済額は51万659円です。（18）、乗合タクシー運行事業は、交通システム保守管理委託料、乗合タクシー事業委託料で、支出済額は1,165万5,600円です。（19）、情報通信基盤施設運営経費は、情報通信基盤施設の災害保険料で、支出済額は9,024円です。（20）、地域創造複合施設整備事業は、地域創造複合施設整備工事費で、支出済額は3,020万6,000円です。（21）、地域公共交通計画策定事業は、更別村地域公共交通活性化協議会助成金で、支出済額は401万4,120円です。（22）、広報関係経費は、広報さらべつの作成、発行に要する費用、北海道自治体情報システム協議会負担金などで、支出済額は431万1,729円です。

目5 交通安全費は、予算現額62万9,000円、支出済額60万8,160円で、不用額は2万840円となっています。備考欄（１）、交通安全運動推進経費は、交通安全指導員に対する報酬等の経費です。

53ページ、54ページをお開きください。目6 公平委員会費は、予算現額2万5,000円、支出済額2万3,960円で、不用額は1,040円となっています。備考欄（１）、公平委員会運営経費は、公平委員会委員に対する報酬等の経費です。

目7 車両管理費は、予算現額7,608万7,000円、支出済額7,498万8,888円で、不用額は109

万8,112円となっています。節10需用費の不用額81万9,996円の内容は、主に備考欄（２）、車両センター維持管理経費の燃料費で5万8,827円、修繕費で5万円、（３）、公用車維持管理経費の公用車修繕費で33万6,280円、（４）、バス運行維持管理経費の消耗品費で12万2,184円、公用車修繕費で4万9,939円の執行残が生じたことによるものです。備考欄（１）、公用車車庫維持管理経費は、公用車車庫の光熱水費等の費用で、支出済額は8万8,538円です。

（２）、車両センター維持管理経費は、車両センターの燃料費、光熱水費等の費用で、支出済額は79万2,667円です。（３）、公用車維持管理経費は、公用車の燃料費、修繕費、自動車損害保険料等の費用で、支出済額は413万5,976円です。（４）、バス運行維持管理経費は、村民バス、福祉バス、スクールバスの消耗品費、修繕費、運行管理委託料が主なもので、支出済額は4,077万7,707円です。55ページ、56ページをお開きください。（５）、車両センター改修事業は、車両センター改修工事費で、支出済額は2,308万9,000円です。（６）、公用車両購入事業は、一般車両購入費で、支出済額は610万5,000円です。

目8村有林管理費は、予算現額3,463万7,000円、支出済額3,460万4,940円で、不用額は3万2,060円となっています。備考欄（１）、村有林整備事業―補助事業は、主に森林環境保全整備事業委託料で、支出済額は2,132万2,088円です。（２）、村有林整備事業―単独事業は、森林保険料、村有林整備事業委託料で、支出済額は189万2,480円です。（３）、村有林野基金積立金は、積み増し分及び預金利子の積立てで、支出済額は1,113万7,789円です。（４）、村有林管理事務経費 経常分は、パートタイム会計年度任用職員報酬、村有林管理消耗品費等で、支出済額は25万2,583円です。

目9住民活動費は、予算現額2,850万5,000円、支出済額2,821万1,861円で、不用額は29万3,139円となっています。備考欄（１）、行政区会館維持管理経費は、行政区会館の修繕費や管理委託料、備品購入費などの行政区会館維持管理に係る経費で、支出済額は571万2,021円です。（２）、地域安全等住民活動経費は、主に各行政区に対する運営交付金、生活安全推進協議会への助成金で、支出済額は870万5,188円です。（３）、行政区会館改修事業は、北更別、南更別、更南、東栄、協和各行政区会館の屋根改修工事費で、支出済額は1,210万円です。57ページ、58ページをお開きください。（４）、協働活動経費は、総合賠償補償保険料、協働活動交付金で、支出済額は165万7,978円です。（５）、協働のまちづくり基金積立金は、運用益金である預金利子の積立てで、支出済額は3万6,674円です。

目10財政調整基金費は、予算現額1億3,013万7,000円、支出済額1億3,013万6,762円で、不用額は238円となっています。備考欄（１）、財政調整基金積立金は、運用益金である預金利子を積み立て、また地方財政法では決算剰余金の2分の1を下らない額を積立てまたは地方債の繰上償還の財源に充てることとされていることから、財政調整基金積立金の財源としています。

目11公共施設等整備基金費は、予算現額4億122万8,000円、支出済額は4億122万3,741円で、不用額は4,259円となっています。備考欄（１）、公共施設等整備基金積立金は、運用益金である預金利子を積み立て、また今後の公共施設の改修等を見込み、4億円を積み増しし

ております。

目12減債基金費は、予算現額1,370万5,000円、支出済額1,370万4,307円で、不用額は693円となっています。備考欄（1）、減債基金積立金は、運用益金である預金利子を積み立て、また普通交付税の基準財政需要額において臨時財政対策債償還基金費1,285万9,000円が措置されたことから、同額を積み立てています。

項2徴税费、目1税務総務費は、予算現額204万9,000円、支出済額186万4,349円で、不用額は18万4,651円となっています。備考欄（1）、固定資産評価審査委員会運営経費は、固定資産評価審査委員会の委員報酬及び費用弁償で、支出済額は2万1,700円です。（2）、税務事務経費は、パートタイム会計年度任用職員報酬、普通旅費、消耗品費、十勝市町村税滞納整理機構負担金、更別村青色申告会助成金が主なもので、支出済額は157万1,643円です。

（3）、村税還付金等は、村税還付金で、支出済額は27万1,006円です。

目2賦課徴収費は、予算現額500万5,000円、支出済額497万8,251円で、不用額は2万6,749円となっています。備考欄（1）、賦課徴収事務経費は、固定資産税納税通知書等の印刷費、相続財産清算人選任申立て手数料、家屋評価管理システム保守管理委託料、土地鑑定評価委託料、北海道自治体情報システム協議会負担金などで、支出済額は284万4,878円です。59ページ、60ページをお開きください。（2）、賦課徴収整備事業は、家屋評価管理システム保守管理委託料、北海道自治体情報システム協議会負担金で、支出済額は213万3,373円です。

項3目1戸籍・住民基本台帳費は、予算現額1,979万9,000円、支出済額1,816万923円で、不用額は163万8,077円となっています。節18負担金補助及び交付金の不用額156万3,638円の内容は、戸籍住民基本台帳等事務経費の北海道自治体情報システム協議会負担金で16万638円、戸籍住民基本台帳等整備事業の北海道自治体情報システム協議会負担金で140万3,000円の執行残が生じたことによるものです。備考欄（1）、戸籍住民基本台帳等事務経費は、主に消耗品費、印刷製本費、北海道自治体情報システム協議会負担金で、支出済額は744万7,517円です。（2）、戸籍住民基本台帳等整備事業は、主に事務用OA機器更改、設定業務委託料、事務用備品購入費、北海道自治体情報システム協議会負担金で、支出済額は1,061万5,990円です。（3）、証明書コンビニ交付事業は、BCLコンビニ交付証明発行機能利用料等で、支出済額は9万7,416円です。

項4選挙費、目1選挙管理委員会費は、予算現額17万7,000円、支出済額15万4,133円で、不用額は2万2,867円となっています。備考欄（1）、選挙管理委員会運営経費は、選挙管理委員会の委員報酬、旅費、費用弁償等を支出しています。

目2衆議院議員選挙費は、予算現額371万2,000円、支出済額370万4,441円で、不用額は7,559円となっています。備考欄（1）、衆議院議員選挙経費は、衆議院議員選挙に係る投開票管理者、立会人等の報酬、投開票事務従事者に対する手当、郵便料、投票用紙計数器点検調整料、選挙ポスター掲示場作成委託料等を支出しています。

61ページ、62ページをお開きください。項5統計調査費、目1各種統計調査費は、予算現額84万7,000円、支出済額60万4,746円で、不用額は24万2,254円となっています。備考欄（1）、

各種統計調査経費は、農林業センサス調査員報酬等を支出しています。

項6目1 監査委員費は、予算現額206万4,000円、支出済額205万5,180円で、不用額は8,820円となっています。備考欄(1)、監査委員経費は、監査委員の報酬、費用弁償等を支出しています。

以上で総務費の補足説明を終わります。

○議 長 この際、午後4時5分まで休憩いたします。

午後 3時55分 休憩

午後 4時05分 再開

○議 長 休憩前に引き続き会議を開きます。

質疑の発言を許します。

3番、斎藤さん。

○3番斎藤議員 50ページです。項1 総務管理費の目4 地方振興費のうち、備考欄の(9)、更別スーパービレッジ構想推進事業3億八千三百何万かの非常に大きな金額で、非常に多岐にわたる事業が展開されたと思いますけれども、一つ一つのお手数でも事業の内容と予算と補助率、その事業の成果について補足して説明していただければと思います。

○議 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 それでは、更別スーパービレッジ構想推進事業の内訳につきましてお答えしたいと思います。

まず、今年度につきましては交付金の申請本数が5本となっております。それぞれ新しいサービスの構築した部分等もございますので、それぞれ決算額も併せて報告したいと思います。1つ目、更別ベーシックインフラサービスの変革による普及事業として、こちらはデジタル田園都市国家構想交付金、交付率3分の2の事業となっております。1つ目、どんぐりスタンプのデジタル化に関するサービス構築事業といたしまして決算額は4,621万3,509円となっております。続きまして、埋設データ開放サービスということで、新たに上下水道管のデータのオープン化を図ろうということでサービスを構築しております、こちらにつきましては1,048万9,000円。3つ目、車両位置情報公開サービスということで、広報等にもお知らせしているところではございますけれども、村民バスやソーシャル・ナレッジ・バンクの自動運転サービス、デマンドサービス等々で位置情報の公開を行っていくサービスとなっておりますけれども、こちらの決算額につきましては1,038万1,009円となっております。4つ目、デジタル医療のオムニチャネルコネクトサービスということで電話による予約、AI音声による予約ができるサービスを構築しております。こちらにつきましては事業費4,902万2,356円となっております。データのオープン化や位置情報につきましては公開情報となりますので、データ連携基盤の改修を行っております。こちらのデータ連携基盤の改修につきましては1,279万2,649円、併せて公的個人認証ということで新たにIDの発行

する仕組みの構築を図っております。即時発行できるようなサービスを構築するに当たって2,228万5,477円、合わせまして事業費1億5,118万4,000円がタイプスリーの事業費となっております。

続きまして、2つ目の交付申請の中身ですけれども、更別リサイクルプラットフォームサービス事業として不用品の買取りサービスのデジタル化を図っております。こちらにつきましては事業費1,670万円となっております。交付率は2分の1の交付率でございます。

3つ目、推進タイプでの事業となりますけれども、持続可能な農村エコシステム構築事業ということでSociety5.0タイプの事業となっております。地域交通物流の自動運転等、物流関係の事業でございますけれども、こちらの実証事業に係る経費といたしまして5,495万円、スマート農業に関する事業費といたしまして8,945万円、分散ストレージの構築ということで2,500万円、通信基盤のメッシュ化ということでスターリンクの構築等々実証に係る経費で420万円、合わせまして1億7,360万円の事業費となっております。こちらについても交付率は2分の1の交付率となっております。

続きまして、コミュニティナースに関する事業でございます。こちらにつきましては事業費3,216万8,000円となっております。

5つ目、村内外から人の流れをつくる交流促進事業ということで、こちらにつきましては事業費990万円、こちらも交付率2分の1でございます。

合わせましてスーパービレッジ構想の事業費3億8,355万2,000円という形になります。

続きまして、スーパービレッジ構想の事業の進捗でございますけれども、サービス数が相当数ございますので、簡単にご説明させていただきたいと思います。歌って踊ってということで、カラオケやマージャンの事業を推進してまいりました。フレイル予防や外出機会の創出ということで事業を行っております。利用者数につきましては、カラオケ延べ424名、マージャンが353名ということで年度末の数字となっております。大人のたまり場事業、カフェの利用券の配付等々で29名の方、これは実数でございます。更別村民講座ということで、サラパークにおいてオカモトさんが事業でやっている内容でございますけれども、人材育成やデジタルスキルの向上ということでイベント等を開催していただいております。サラパークにおいて延べ802名の参加をいただいております。写真・動画共有アプリということでサービスを展開しておりますけれども、スマホ教室での操作の支援、あとはデジタルの普及を図るために写真を撮ってデジタルに触れる機会を創出しているわけでございますけれども、こちらについてはビュー数でいきますと4,859ビューということで相当の方が見ていただいているのかなというふうに思っております。

更別健康アプリ、こちらはウェアラブルウォッチとスマートメーターの設置に関する事業でございます。健康寿命の延伸、高齢者の見守りのために事業を推進しておりますけれども、こちらにつきましてはウォッチの配付数が101名、スマートメーターの設置数が30人ということになっております。続きまして、楽しく運動ということで、オカモトさんにやっていただいている軽運動教室の事業でございます。こちらにつきましては延べ474名の方に利

用いただいております。更別健康プロジェクトということでヨガ等の事業の実施を週1回行っておりますけれども、こちらにつきましては延べ673名の方に事業に参加していただいております。続きまして、チャットコーチング、栄養指導に関する成人病予防に関する事業でございますけれども、こちらにつきましては実数で30名の方に利用いただいております。温泉・サウナ使い放題ということでチケット、利用券の配付を行っておりますけれども、こちらは実数で20名。

コミュニティナースに関する事業でございますけれども、月457名の方との面会、村民コミュニティナースの方を、お手伝いいただく方を構築するということで、現在75名の方に村民コミュニティナースとして登録をいただいているということでございます。

らくらくサービス予約ということで、こちらは施設の予約に関する事業で、電子申請の施設予約に関する事業でございます。実数といたしまして321名の方に利用いただき、予約件数といたしましては2,723件となっております。

続きまして、村内移動デマンドサービスということで自動運転のサービスとサービスデマンドということで事業を行っており、あとはロボット配送の関係に関する事業でございますけれども、こちらにつきましては、自動運転につきましては30名、実数です。デマンド交通については延べ980名の方に利用いただいております。

続きまして、情報センターに関する事業でございます。ひゃくワクサービスのページのところでいろいろな情報を公開しているわけでございますけれども、閲覧者の方につきましては2,714名、ページのビュー数といたしましては8,755ビューということでございます。無料スマホの貸出しでございます。6年度末につきましては208台のスマートフォンの貸出しが実施されているところでございます。続きまして、デジタルサポートです。スマホ教室の実施の部分でございますけれども、延べ人数でいきますと668名、相談件数は延べ328名の方からいただいております。

続きまして、自動化農業の部分でございますけれども、ロボット農機の導入台数については2台にとどまっているところです。ただ、ドローンによる農薬の散布等につきましては250ヘクタールほどの散布が見られるということで、少しずつ普及が進んでいるということでございます。

続きまして、救急搬送サービスにつきましては、令和7年度より事業を開始するというところで、もう既に広報等でお知らせしておりますけれども、事業が開始されておりますので、今後登録、普及について推進を図ってまいりたいと思っております。

続きまして、待たない医療サービスということで、こちらについても電子申請の関係につきましては本年インフルエンザの予防の予約が10月から開始されるということで、同様に普及活動を推進してまいりたいというふうに考えているところでございます。

あとはデジタルどんぐりスタンプ会のサービスでございますけれども、こちらについても10月からポイントの付与が始まりますので、同様に普及、推進を図ってまいりたいというふうに考えているところでございます。

以上でございます。

○議長 長 3番、斎藤さん。

○3番斎藤議員 大変詳細にご答弁ありがとうございました。聞き漏らしたかもしれないのですが、4番目のコミュニティナースの予算3,216万8,000円と、これに関する補助率はどれだけでしたでしょうか。

○議長 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 失礼いたしました。コミュニティナースに関する事業につきましても推進タイプということで、交付率については2分の1の交付率となっております。

○議長 長 この件につきまして関連質問のある方。

なければ、ほかの件でもよろしいです。

6番、荻原さん。

○6番荻原議員 ページ数57、58ページ、項2徴税費の目1税務総務費、備考欄の18、負担金補助及び交付金なのですけれども、これ滞納整理機構に関わる事業かなと思うのですが、昨年度の機構に委託した分の実績について詳細について説明をいただきたいと思います。

○議長 長 小野寺住民生活課長。

○住民生活課長 ご質問のありました十勝市町村税滞納整理機構への負担金でございます。今お話ありましたとおり、税務事務経費の負担金補助及び交付金の中にこの交付金が含まれておりますけれども、その整理機構への支出額につきましては25万3,000円ということになってございます。そして、この内訳でございますけれども、1名分になっておりまして、そしてこの負担金は3本立てで支払いをしております。まず、1つ目が均等割ということになりますけれども、これは基本額になります。市町村が一律で住民税分としては16万円が負担をしていると。また、滞納者の件数割としまして1件当たり9万円と。さらに、過年度の実績分ということで、これは率計算になりますけれども、計算した結果が今回は3,000円ということになっております。合計で25万3,000円ということです。なお、件数割の部分なのですけれども、100万円の徴収をしても10万円の徴収をしても定額となっております、1件当たり9万円と、そういう支払い方になってございます。

あと、この滞納整理機構へ引継ぎをしたその対応状況につきましては、先ほどご説明をしたとおり1名分ということになっておりまして、令和5年度分で個人住民税の4期分です。この合計の金額が滞納になっているということでございます。

それで、滞納整理機構へ引継ぎする場合はいろいろ、いろんなケースはあるのですけれども、例えば更別以外、帯広や札幌へ転出して連絡や自宅訪問がなかなか難しくなっている、そういう状況ですとか、なかなか約束が守られない、俗に言う悪質な滞納者です、こういった場合については整理機構へ引継ぎをすると、そういった考え方で進めてございます。それで、今回滞納者の方については何度も電話連絡や自宅訪問をしておりましてけれども、なかなか支払ってもらえないと、そういう状況にありました。その後管外、この方も管外へ転出してしましまして、なかなかやっぱり連絡をしても出てもらえない、かなり遠いので、自宅

に訪問もなかなか難しいということからやむを得ず滞納整理機構へ引継ぎをしたということになってございます。その後整理機構のほうでは強く徴収をしていただきまして、令和6年10月には全額が徴収をされていると、完納していると、そういう状況になってございます。

それで、今ご説明したとおり、機構さんへの負担金というのがなかなか多い額です。1名当たりの徴収なのですけども、今回25万3,000円を支払っているということで、金額としてはかなり経費がかかっているという印象はあると思いますけれども、滞納者に対して、滞納金額に対してかなり経費がかかると。必要以上に負担金がかかる場合もありますけれども、やはり税の公平性、徴収業務の負担軽減、この辺を考慮すると滞納整理機構への負担金についてはやむを得ない、必要不可欠な経費であるかなとは考えてございます。引き続き滞納額を解消できるように徴収に努めたいと考えておりますので、ご理解をいただきますようよろしくお願いをいたします。

以上です。

○議 長 6番、荻原さん。

○6番荻原議員 説明ありがとうございました。昨年度については本村については3件ということで依頼したということでございます。やはり税の公平性から考えた場合に、もうきちんとした対応しないと、要するに税をきちんと納めている方々に対する説明がつかないので、こういう形の滞納整理機構を利用させていただいてきちんと徴税するという姿勢は村民の皆さんに見せなければいけないと思いますので、先ほど言われましたけれども、要するに税の公平性を保つのだという観点からきちんとした対応をしていただきたいなというふうに思います。

以上です。答弁結構です。

○議 長 4番、尾立さん。

○4番尾立議員 私の質問、49ページ、50ページの見開きのところで質問があります。

備考欄の(10)、地方創生テレワーク事業、こちらです。どのような事業がなされていて、今どういう展開になっているのかなどを教えてください。お願いいたします。

○議 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 地方創生テレワーク事業の事業内容についてご説明いたします。

こちらにつきましては、デジタル田園都市国家構想のテレワークタイプの交付金を活用した事業となっております。事業といたしましては特定小型EVモビリティの街として経済人流活性化事業ということで事業名をつけており、内容につきましては観光客の誘致環境の整備ということで特殊小型4輪車両もしくは電動2輪のキックボードの貸出事業と、併せましてこちらEVの急速充電設備を構築しております。こちらの事業につきましては、地元企業と外部の企業がそれぞれ連携した形で事業を推進するということになっておりまして、東京からはレスターという企業で地元企業からはヤマジョウさんとソーシャル・ナレッジ・バンクのほうでの3者での事業を構築する中身となっております。EV急速充電設備につきましては、ヤマジョウさんの旧スタンドに既に設置済みでございまして、村内でのE

Vの普及に資するものとして事業を推進していただいております。

以上でございます。

○議 長 4番、尾立さん。

○4番尾立議員 ご説明ありがとうございます。追加でもう少し説明をお願いします。今4輪キックボードの貸出しという項目がありました。私が知っている4輪キックボードは、観光地の京都とか東京とかであちらこちらにステーションがあるタイプなので、多分こちらはまた違うタイプの構成を企画されているかと思います。4輪キックボードのこの事業はどんなような企画概略でお考えかというのを教えてください。お願いします。

○議 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 こちらにつきましてもヤマジョウさんのほうで4輪キックボードのレンタル事業を行っていただいております。旧スタンドのところに2台設置して、現在もレンタル事業として事業を推進していただいているところでございますけれども、大きな観光地にあるようなステーションを幾つも設けているわけではございませんので、ヤマジョウさんのほうで周遊していただいて戻ってきていただくようなレンタル事業となっております。

以上でございます。

○議 長 4番、尾立さん。

○4番尾立議員 未来志向の準備が整っているという理解をさせていただきます。ご答弁ありがとうございます。

○議 長 1番、太田さん。

○1番太田議員 すみません。ちょっと確認させてほしいのですけれども、先ほどの4輪キックボードと言ったのは、4輪車とキックボードって別な考えで僕いたのですけれども、ちょっと説明をお願いします。

○議 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 すみません。ちょっと言葉足らずでございました。おっしゃるとおり、電動特殊小型4輪の区分と電動2輪キックボードの区別がございまして、今お話ししていたのは電動特殊小型4輪のタイプのお話をさせていただいておりました。

○議 長 1番、太田さん。

○1番太田議員 このキックボードの成果についてはどのようになっているのでしょうか。

○議 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 実際にレンタル事業としてはまだサービスがスタートしたばかりになっていますので、実際のところはまだ乗っていただいている方はごく数名というふうに伺っております。ただ、こちらヤマジョウさんのほうで車両の販売代理店の許可をいただいているというふうに伺っておりまして、村内での販売も進んでおり、聞くところによりますと2台ほど村内でも販売がされているということで少しずつ普及が進んでいるのではないかとこのように考えております。

○議 長 1 番、太田さん。

○1 番太田議員 特殊 4 輪については 4 輪ということで安全性、高齢者の方にもということはある程度理解できて、その中でどういうふうに普及しようか、更別でということなのですけれども、キックボードに関しては 2 輪で年代層も変わってくるのかなど。また、あとはどういったことを目的としてこのキックボードを選んだのか、この更別のデジタルの推進という面です。ちょっとその辺も併せてこのキックボードの在り方というか、成果というか、その辺も説明いただきたいのですが、いかがでしょうか。

○議 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 電動 2 輪のキックボードの事業につきましては、ソーシャル・ナレッジ・バンクのほうでも推進を図ってきたところでもございます。デジタル化の部分とどう連携するのかというところについては、予約サービスということで予約を受けて貸出しをするというようなところでひもづけをしているのですけれども、そもそもの話なのですけれども、先ほど申し上げましたとおり、こちら地方創生の推進タイプのテレワーク事業ということになっていますので、地域の活性化、観光客の誘致ですとか、そちらの環境の整備を図るということで、村内の方には電動特殊小型 4 輪の販売も進んでいるというふうに伺っておりますけれども、電動 2 輪キックボードにつきましてはターゲット層はやはり観光客ということで考えているところでございました。実際には周知のほうもなかなか進んでいないところもあるのですけれども、近隣市町村での普及も鑑みて、今後も普及啓発を図ることによって村外からの観光客の方にも使っていただけるようなサービスとなるというふうに期待しているところでございます。

以上でございます。

○議 長 1 番、太田さん。

○1 番太田議員 地方創生の観点からということで、更別村の観光とも兼ね合わせたということで、これここの年度の決算の話で言ってしまうと、やはりなかなか、それがうまく観光と EV というものが、キックボードにしても結びついてこなかったということが反省としてあると思うのですけれども、この辺の、まだ来年、次年度以降、今年度もそうですけれども、ずっと使っていけるものとして、この地方創生の観光の面とキックボード、村としてどのように併せていったら観光と EV というところの村が目指すところにあるのか、どういうことを改善していかなければいけないのかということも補足で説明してもらえればと思います。

○議 長 今野企画政策課参事。

○企画政策課参事 キックボードの関係につきましては、いろいろな方々にもご相談させていただきながら普及を図るということで事業の構築を図ってきたところでございます。観光施設というところでいきますと、道の駅や、あとはサーキットのほうとも連携した形で周遊できるような事業にならないかということも考えておりました。もちろん近年景観を見に来られる方も多くなっているということで伺っておりますので、そういった外から景

観を見に来られた方への貸出し等をどのように普及していけばいいのかというのは今後検討の余地は十分あるのかなと思っております。実際のところヤマジョウさんのほうでもいろいろな企業の方、観光施設の方ともお話をされながら周遊の周知等も図っていくということで伺っておりますので、村内のみならず、近隣の中札内やそういったところとの連携も進んでいけばいいのかなというふうに思っているところでございます。

以上です。

○議 長 1 番、太田さん。

○1 番太田議員 様々な利活用について、観光でお客さんに周知するという事について取り組んでいるとは思いますが、更別にもプラムハウス、パークゴルフ場についてもだんだん利用が減ってきたりだとかあったり、道の駅、レース場に行くにしても距離がやっぱり遠くて、交通の不便、そういったところで更別の近くには温泉あるけれども、ここの役場から考えても1キロぐらいはあるのかなということを考えると、そういった機械というかEVの誰でも気軽に運転できるものを通して観光というものを推進していかなければいけないですし、これが、今企画政策課でやっていることも、ほかの課も含めて、また観光協会などとも協議を含めてこのEVを利活用していったほしいなというところの意見です。よろしくお願いいたします。

○議 長 意見として承っております。

ほかありませんか。

6 番、荻原さん。

○6 番荻原議員 47、48ページ、目4 地方振興費、備考の(2)、結婚支援事業なのですが、この事業の昨年度の事業実績もう少し詳しく説明していただきたいと思います。

○議 長 本内企画政策課長。

○企画政策課長 結婚支援事業の実績でございますけれども、この事業は国の少子化対策交付金を活用した事業ということで、昨年、6 年度の実績は1 件でございます。補助の内容については、6 年度については6 年度中に婚姻届を提出された方の家賃助成等がメインになってございまして、上限額が1 世帯当たり30万円、ただし夫婦ともに29歳以下の場合は60万円が上限となっているところでございます。6 年度の実績、交付しているのは1 件でございますけれども、5 年度の年度末に、ごめんなさい、先ほど年度内に婚姻届とお話ししましたが、1 月1 日から翌年の3 月31 日までの間に婚姻届が受理された世帯が対象ということですので、年度をまたいで家賃助成をすることができるということで最大12 か月となっております。5 年度からの引き続きの助成ということで、1 件分で今回は43 万2,000 円、6 年度分で助成をしているところでございます。ちなみに、国庫補助は2 分の1 でございます。

以上です。

○議 長 6 番、荻原さん。

○6 番荻原議員 ありがとうございます。6 年度中は1 件ということなのですが、村内に住まわれる形で婚姻されているのか、その辺もし分かればお願いしたいと思います。

○議 長 本内企画政策課長。

○企画政策課長 村内でお住まいになるのが条件となっております。

○議 長 6番、荻原さん。

○6番荻原議員 51、52ページ、備考欄真ん中辺ですけれども、(18)の乗合タクシー運行事業なのですけれども、こちら昨年度どういう実績があったのか説明いただきたいと思っています。

○議 長 本内企画政策課長。

○企画政策課長 昨年度の乗合タクシー運行事業の実績でございますけれども、6年度につきましては運行日数が246日あるところ実運行日数が154日、運行回数は325回で輸送人員は延べ493名となっているところでございます。

以上です。

○議 長 ほかありませんか。

◎休会の議決

○議 長 お諮りいたします。

議事の都合により、9月10日は休会いたしたいと思います。これにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、9月10日は休会することに決定いたしました。

◎延会の議決

○議 長 再びお諮りいたします。

本日の会議は、これにて延会したいと思います。これにご異議ありませんか。

(異議なしの声あり)

○議 長 異議なしと認めます。

したがって、本日はこれで延会することに決定いたしました。

◎延会の宣告

○議 長 本日は、これをもって延会いたします。

(午後 4時40分延会)

上記会議の経過は、その内容と相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和 7年 9月 9日

更別村議会議長

同 議員

同 議員